

# 父親の友人関係におけるパパ友関係

弘前大学大学院教育学研究科  
学校教育専攻・学校教育専修  
幼児教育分野

13GP102

安藤真紀

## 目次

序章	1
第1節 問題の背景	1
第2節 本研究の目的と方法	1
第3節 各章の概要	2
第1章 母親にとってのママ友	4
第1節 ママ友の特徴	4
第1項 子どもを介する・介さない関係	4
第2項 子どものための関係	5
第3項 育児における情報交換や相談の相手	5
第2節 ママ友の捉えなおし	7
第1項 従来のママ友の定義の課題	7
第2項 ママ友のサブ・カテゴリーの存在	8
第3節 まとめ	8
第2章 新聞記事で語られるパパ友	12
第1節 調査目的	12
第2節 調査方法	12
第3節 結果及び考察	13
第1項 父親の育児参加の促進	14
第2項 育児に関する相談相手	15
第3項 新しくつくる関係	16
第4節 まとめ	17
第3章 実態としてのパパ友	22
第1節 パパ友の特徴—アンケート調査から—	22
第1項 子どもとは関係なく知り合う	23
第2項 パパ友は友人の一形態	24
第2節 パパ友の特徴—インタビュー調査から—	26
第1項 パパ友がいない父親たちのパパ友イメージ	27
第2項 パパ友がいる父親にとってのパパ友	29
第3項 小括	36
第3節 パパ友がいる父親たちに共通するパパ友の特徴	37
第1項 他の関係を基盤として作られた関係	37
第2項 大人どうしの関係	38

第4節	まとめ	39
第4章	パパ友特有の特徴	41
第1節	ママ友との比較	41
第2節	新聞記事で語られているパパ友との比較	42
第3節	まとめ	43
終章		45
引用・参考文献		47
引用・参考URL		49
引用新聞記事		49

## 序章

### 第1節 問題の背景

土曜日、日曜日になると、地域の子育て広場には母親はもちろん、父親の姿もみられる。父親が子どもと触れ合う姿を公の場で見るとは珍しいことではなく、一見父親による育児が積極的に行われているようにみえる。実際に、父親が育児に費やす時間を10年前と比較してみると、1日約12分増加している。わずかではあるが、10年で父親も育児に取り組むように変化していると考えられる<sup>1)</sup>。

その背景として考えられるものに、政府やNPO法人による取り組みがある。例えば、厚生労働省では、日本の男性の育児休業取得率の向上を目標に掲げ「イクメンプロジェクト」<sup>2)</sup>を実施している。イクメンプロジェクトの目標は、父親のさらなる育児参加を推進することによる、ワーク・ライフ・バランスの実現である。イクメンプロジェクトでは、父親はもちろん、ときには家族全体を対象にシンポジウムを主催したり、他団体が開催したイベントにブースを出展したりして、父親の育児参加を推進している。また、父親の育児参加を推進するための活動は、政府だけが行っているわけではなく、NPO法人によっても行われている。

NPO法人ファザーリング・ジャパンやその支部では、父親が育児に積極的に取り組むことができるようになるための1つの方法として、パパ友の輪を広げることを掲げ、活動を実施している。その活動のひとつとして、NPO法人ファザーリング・ジャパン関西が行っている「パパ友プロジェクト」がある。このプロジェクトは、同じ地域に住む父親どうしがパパ友になり、コミュニティを作ることにより、パパ友たちが笑顔になり、家族が笑顔になり、地域が元気になることを目指している<sup>3)</sup>。

「パパ友プロジェクト」では、パパ友がいることによるメリットとして、家庭や仕事の悩みを相談できる、人間関係の幅が広がる、地域や学校行事に参加しやすくなる、子どもたちに多様な大人像を見せることができる等をあげ、このメリットを周知するための講演会や、メリットがあるという前提のもとで、パパ友をつくるための活動を企画している。

これらのメリットをもつとされているパパ友であるが、花王などが行った調査(2009)ではパパ友がいるとした割合は52.9%<sup>4)</sup>、一方、ニッセンが行った調査(2014)ではママ友がいるとした割合は76.5%<sup>5)</sup>と、パパ友の方が23.6ポイント低い。このように、パパ友がママ友ほど普及しないのは、ママ友とは異なる状況や、パパ友イメージと実態の違いがあるためではないかと考えた。

### 第2節 本研究の目的と方法

本研究では、父親へのアンケート調査及びインタビュー調査で得られた結果を、ママ友の先行研究によるママ友の特徴や、新聞記事で語られているパパ友の特徴と比較・考察することでパパ友の特徴を明らかにすることを目的とする。

本研究によって、同じ親同士の関係を表すママ友や、新聞記事で語られているパパ友と

の比較を行うことで、実態としてのパパ友の特徴がより鮮明になる。それにより、ママ友という母親どうしの関係ほど子育てにおいて役に立つ関係とみなされていない父親どうしの関係を、子育てに役に立つ関係にしていくために何が必要かを考えるきっかけを提供できる。

### 第3節 各章の概要

本稿の構成は以下の通りである。第1章では、ママ友の特徴について先行研究をもとに明らかにする。第2章では、パパ友に関する新聞記事で語られているパパ友の特徴について分析を行う。第3章では、アンケート調査とインタビュー調査によりパパ友の特徴を明らかにする。第4章では、アンケート調査及びインタビュー調査で実際のパパ友の特徴を先行研究から明らかとなったママ友の特徴や新聞記事で語られていたパパ友の特徴と比較をする。

### 注

- 1) 筆者は不定期で商業施設にある子どものひろばでボランティアをしていたことがある。
- 2) 「働く男性が、育児をより積極的にすることや、育児休業を取得することができるよう、社会の気運を高めることを目的としたプロジェクト（厚生労働省ホームページ）」であり、2010年6月17日に発足。厚生労働省ホームページ (<http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/06/tp0618-1.html>)
- 3) 「NPO 法人ファザーリング・ジャパン関西」ホームページ (<http://fjkansai.jp/portfolio/papatomo>)
- 4) 花王・アジャイルメディア・ネットワーク「パパの子育てに関する意識調査」2009 (<http://markezine.jp/article/detail/7977>)
- 5) ニッセン「育児に関する意識調査」2014 (<http://present.nissen.co.jp/doc/release/20141010-1017.pdf>)

### 引用・参考文献

- 高橋均「5. 父親向け育児・教育雑誌における父親像の分極化 (IV-7 部会 家族と教育 (2)、研究発表IV)」『日本教育社会学会大会発表要旨集録』第65巻、2013、pp.334-335
- 寺見陽子・藤本あゆみ「PE-008 父親の育児意識の変容と育児参加度に関する研究：10年前との比較 (発達、ポスター発表)」『日本教育心理学会総会発表論文集』第55巻、2013、p.371
- 山際勇一郎ら「父親の育児を考える (準備委員会企画シンポジウム3)」『日本教育心理学会総会発表論文集』第55巻、2013、S18-S19

## 引用 URL

株式会社ニッセン「育児に関する意識調査」2014 (<http://present.nissen.co.jp/doc/release/20141010-1017.pdf>) 最終アクセス 2015 年 1 月 28 日

花王・アジャイルメディア・ネットワーク「パパの子育てに関する意識調査」2009、(<http://markezine.jp/article/detail/7977>) 最終アクセス 2015 年 1 月 28 日

厚生労働省「イクメンプロジェクト」ホームページ ([http://www.ikumen-project.jp/inquiry/faq\\_site.php](http://www.ikumen-project.jp/inquiry/faq_site.php)) 最終アクセス日 2015 年 1 月 8 日

「NPO 法人 ファザーリング・ジャパン関西」ホームページ (<http://fjkansai.jp/>) 最終アクセス日 2014 年 12 月 18 日

総務省統計局「平成 13 年社会生活基本調査 報告書掲載表」(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000000150007&cyclo=0>) 最終アクセス日：2015 年 1 月 7 日

総務省統計局「平成 23 年社会生活基本調査 統計表一覧」2011

([http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?\\_toGL08020103\\_&tclassID=000001041121&cyclo=0&requestSender=search](http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&tclassID=000001041121&cyclo=0&requestSender=search)) 最終アクセス日 2014 年 12 月 11 日

## 第1章 母親にとってのママ友

パパ友は父親の間で形成される友人関係のことであると推測できる。一方、母親の間で形成される友人関係のことを指すママ友という概念がある。これらは、いずれも親どうしの友人関係を表したものであるが、そこに違いは存在するのか、また存在するとすればどのような違いであるのかを検証するための前段階として、本章では先行研究からママ友の特徴について検討する。ママ友の直接的な先行研究は10件みられた<sup>1)</sup>。その中で、量的な見地からママ友について研究しているものが7件、質的な見地から研究しているものが2件、量的・質的両側面から研究しているものが1件みられた。

### 第1節 ママ友の特徴

先行研究から、次のママ友の特徴を見出した。第1に、ママ友との関係は、子どもを介して形成される場合と、介さずに形成される場合があるということ、第2に、ときに母親が付き合いの難しさを感じるママ友がいるということ、第3に、育児における情報交換や相談の相手であるということである。

#### 第1項 子どもを介する・介さない関係

ニッセン（2014）によると、母親がママ友と知り合うきっかけは、割合が高いものから「保育園など教育施設」（35.6%）、「同級生や同僚など元々知り合い」（27.9%）、「公園や育児教室など」（16.1%）となっている。

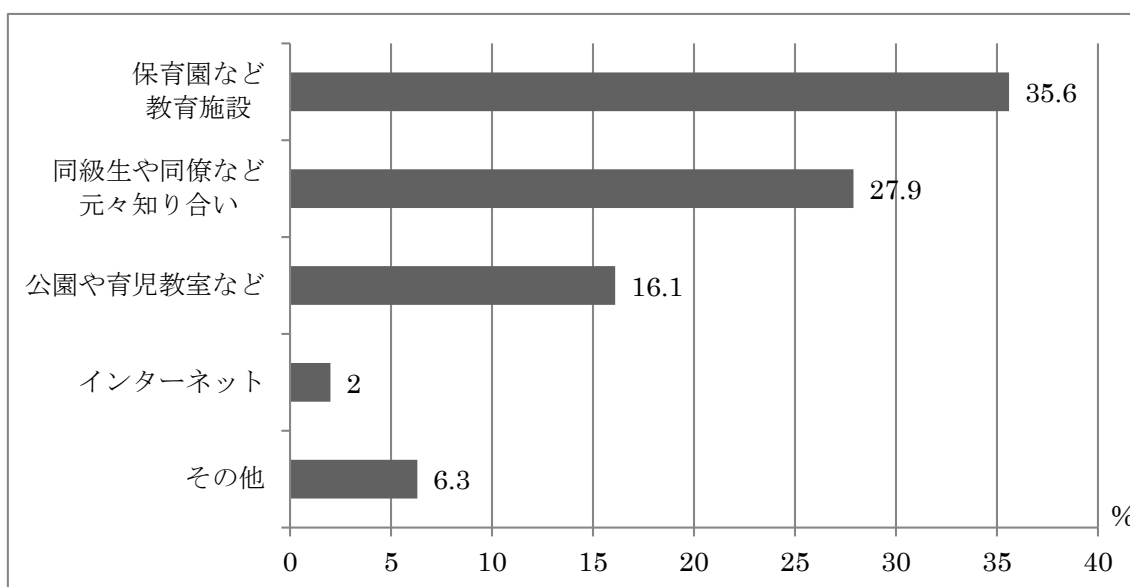


図1 母親がママ友と知り合う場所

(出典：株式会社ニッセン「育児に関する意識調査」2014、p.2<sup>2)</sup>より筆者作成)

母親がママ友と知り合う場所として最も多いのは、保育園など子どもの教育施設であつ

た。この場合は、子どもを介して形成された関係といえる。

その次に多いのは、同級生や同僚として元々知り合っていた場合であった。同級生や同僚など元々知り合いである場合には、子どもを介して母親どうしの関係が新たに形成されたわけではない。同級生として元々知り合っていた場合は、その同級生が自分と同じように母親となったことでママ友として捉えるようになったのだと考えられる。また、同僚として元々知り合いであった場合も、その同僚が自身と同じく母親となったことでママ友として捉えるようになったのだと考えられる。したがって、同級生や同僚として元々知り合いであった人がママ友と捉えられた場合は、元々もっていた同級生や同僚としての関係に、ママ友という関係が新たに加わったのだと考えることができる。

## 第2項 子どものための関係

母親はときに、ママ友との付き合いに難しさを感じることもある。ママ友の友人関係の形成における通信メディアの利用という側面から研究を行った宮木（2004）は、母親がママ友との付き合いに難しさを抱くのは、収入格差や服装の違い、価値観やしつけの違い、子どもの性差、しかり方などの違いがみられたときだとしている<sup>3)</sup>。ママ友との関係における対人葛藤の側面から研究を行っている中山ら（2014）も、母親自身がこうあるべきだと考える育児のあり方と、ママ友のその考え方がずれていることで、トラブルや悩みなどのネガティブ事象が生まれているとしている<sup>4)</sup>。

ママ友の先行研究から考えると、ママ友との付き合いに対する難しさは、収入格差や服装の違い、子どもの性差、しつけや価値観の違いから生じるということになる。

付き合いの難しさを感じた母親の中には、ママ友との関係を断絶する者もいるかもしれないが、ママ友との関係を断絶することが難しい場合がある。これは、とくに子どもを介してママ友との関係を形成した場合にあてはまる。

宮木（2004）によると、子どもを介さずに形成されたママ友との関係の場合、そもそもお互いが友人として選択して築いた関係であるため、通常の友人関係と同様、関係維持の過程で振り分けられ、合う友人、合わない友人として、関係性が継続もしくは断絶されていくものとされている。一方、子どもを介して形成された母親どうしの友人関係は、母子ペアで関係を構築しているため、一概に母親どうしの感情のみで友人関係の親しさを規定することが難しいとされている<sup>5)</sup>。

このように、しつけや価値観の違いからママ友との付き合いに対して難しさを感じていても、子どものことを考慮して関係を断ちにくい場合がある。中山（2011）は、子どものために無理をして付き合っている母親たちは、本音を話すことや、内面の自己開示をすること、ぶつかり合うことをさけるため、結果的に浅い関係になるとしている<sup>6)</sup>。

## 第3項 育児における情報交換や相談の相手

前項のように、子どもを介してママ友との関係を形成している母親のなかには、ママ友



との付き合いに対して難しさを抱えている者もいる。一方で、ママ友は母親たちにとって主要な子ども関連の相談相手や情報源である。

宮木（2004）によると、「ママ友とは、悩みや不安を共有したり、相談し合っている」ことに関して、「そう思う」とした母親は全体の 31.9%、「まあそう思う」とした母親は全体の 46.4%であり、母親全体の 8 割近くがママ友と悩みや不安を共有したり、相談し合うことをしている（図 2）。また、「ママ友は、子ども関連の情報交換に便利」に対し、「そう思う」とした母親は全体の 44.7%、「まあそう思う」とした母親は全体の 47.6%となり、母親全体の 9 割以上が、ママ友のことを、子どもに関する情報交換に便利な存在だと捉えている（図 2）。

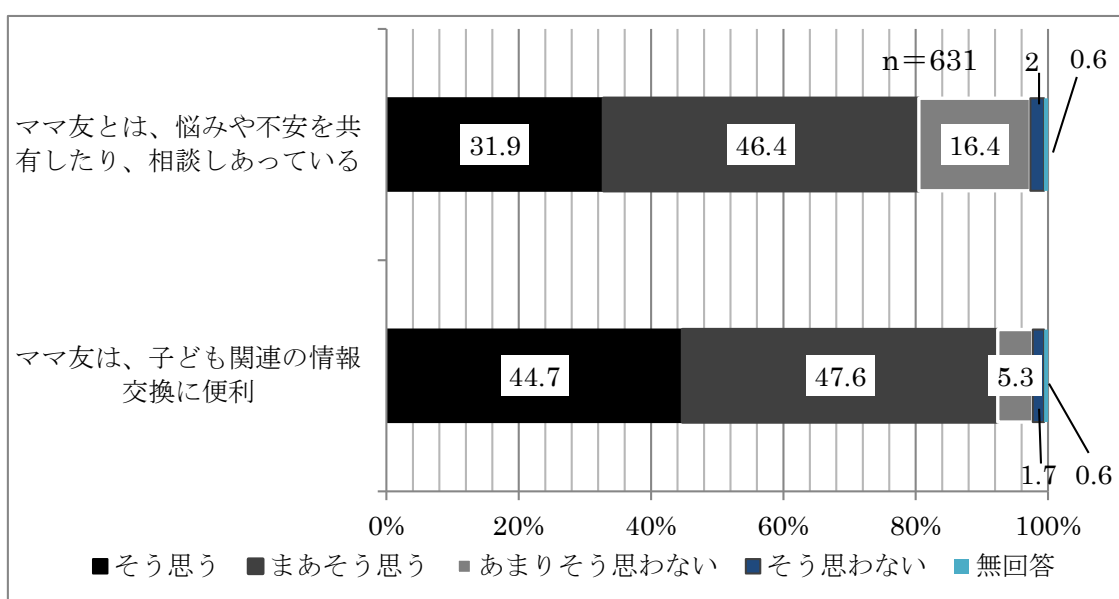


図 2 ママ友に対する考え方

（出典：宮木（2004）<sup>7)</sup>より筆者作成）

ニッセンが行った調査（2014）でも、ママ友が情報交換の相手であるという考えは支持される。母親たちが情報源として最も利用しているのは、ママ友となっており（49.6%）、母親たちの半数近くが育児に関する情報源としてママ友をとらえていることになる。

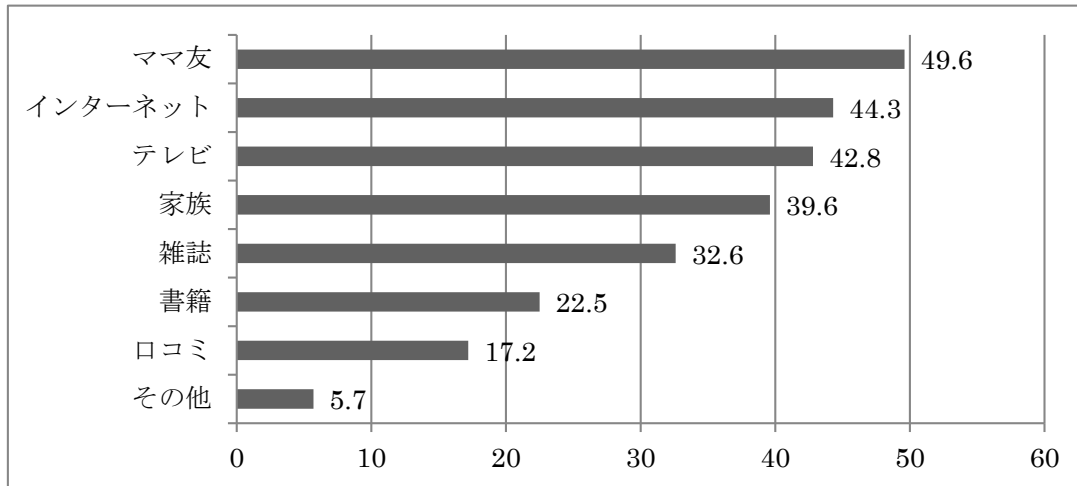


図3 母親の子育てに関する情報源

(出典：株式会社ニッセン「育児に関する意識調査」2014、p.2<sup>8)</sup>より筆者作成)

ママ友は人的資源だけでなく、すべての資源を含めて最も利用されている情報源となっている。

## 第2節 ママ友の捉えなおし

ママ友との関係は、子どもを介さずに形成される場合もあること、子どもを介していても友人的な関係になれる場合もあるが、母親のなかには子どもを介してつくられたママ友との付き合いに対し難しさを感じる場合があること、の2点を確認してきた。そこで、先行研究におけるママ友の定義とこれらの特徴を照合し、ママ友の特徴をより適切に反映したママ友の類型を提示する。

### 第1項 従来のママ友の定義の課題

先行研究におけるママ友の定義には、大きく分けて2つのものがある。まず、中山ら(2014)のように、広く「育児中の母親同士の友人関係」と捉えている定義がある<sup>9)</sup>。この場合には、先にあげたママ友との関係は子どもを介して形成される場合と、子どもを介さずに形成される場合があるという特徴を含めることができる。一方、その他の定義をみると、金(2013)の研究においては、「子どもを介した母親同士の友人関係」<sup>10)</sup>、宮木(2004)は「子どもを介した母親の友人関係...《中略》...このような育児期の友人関係を「ママ友」<sup>11)</sup>と定義づけるなど、ママ友というのはあくまで子どもを介した関係として定義されている。また、工藤(2013)は「母親本人の就学や就労で形成される友人関係とは区別される」<sup>12)</sup>など同級生や同僚などの元からの友人をママ友と区別して定義している。

宮木（2004）<sup>13)</sup>、工藤（2013）<sup>14)</sup>、金（2013）<sup>15)</sup> の定義はママ友の実態に比べて、狭い定義をしているといえよう。実際のママ友のなかには、図 1 で見たように「同級生や同僚など元々知り合い」であるママ友が約 3 割存在している。子どもを介して形成され、母親たちが義務感で付き合いをしているママ友にしか目を向けていない定義は、ママ友の特徴を適切に反映しているとはいえない。

## 第 2 項 ママ友のサブ・カテゴリーの存在

このことを踏まえ、ママ友のサブ・カテゴリーを表したものが図 4 である。

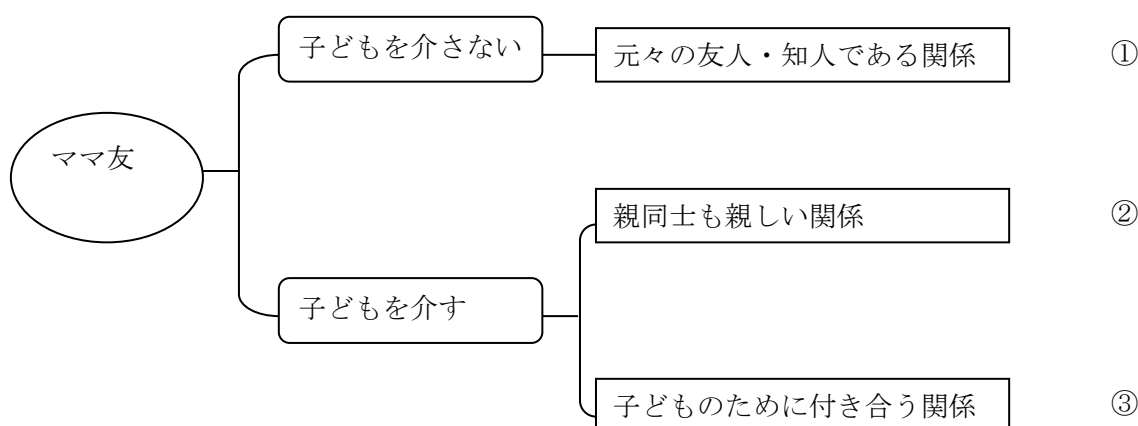


図 4 ママ友の類型（筆者作成）

まず、ママ友との関係は、子どもを介さずに作られる場合と、子どもを介して作られる場合がある。子どもを介さない関係というのは、同級生や同僚など元々の友人・知人であった関係のことである（図 4 中の①）。一方、子どもを介して作られる関係には、元々の友人に近い、親どうしも親しい関係（図 4 の②）と、母親が自ら望んで付き合うのではなく、子どものために付き合う関係（図 4 の③）がある。

このことを踏まえ、本稿ではママ友を「子どもを介すか介さないかに関わらず、育児期の母親の間で形成される友人関係」とする。

## 第 3 節 まとめ

先行研究に基づいたママ友の特徴として、関係が子どもを介さずに形成される場合があった。しかし、現在の先行研究におけるママ友の定義は、これらのママ友の特徴を適切に反映していないと考え、新しくママ友の定義づけを行った。本研究におけるママ友の定義は、「子どもを介すか介さないかに関わらず、育児期の母親の間で形成される友人関係」<sup>16)</sup>とした。この知見を活かして、第 4 章で実際のパパ友の特徴との比較を行う。

## 注

- 1) NII 学術情報ナビゲータ CiNii での検索。(最終アクセス日 2014 年 12 月 2 日)
- 2) ニッセン「育児に関する意識調査」2014 (<http://present.nissen.co.jp/doc/rel ease/20141010-1017.pdf>) p.2
- 3) 宮木由貴子「「ママ友」の友人関係と通信メディアの役割—ケータイ・メール・インターネットが展開する新しい関係—」第一生命経済研究所『ライフデザインレポート』第 159 巻、2004、p.9
- 4) 中山満子・池田曜子「ママ友関係における対人葛藤経験とパーソナリティ特性との関連性」『パーソナリティ研究』第 22 巻第 3 号、2014、p.285、287
- 5) 宮木、前掲書、p.8
- 6) 中山満子「ママ友という対人関係（特集 母親の育児不安に対処する）」『月刊地域保健』第 42 巻第 3 号、2011、pp.54-55
- 7) 宮木、前掲書、p.8
- 8) ニッセン、前掲書、p.2
- 9) 中山・池田、前掲書、p.285
- 10) 金昌震「大都市における子育て支援の現状と課題：札幌市事例を中心に」『北海道大学大学院文学研究科 研究論集』第 13 号、p.446
- 11) 宮木、前掲書、p.6
- 12) 工藤遥「都市の育児援助システムにおける「子育てサロン」の機能」『北海道大学大学院文学研究科 研究論集』第 13 号、2013、p.455
- 13) 宮木、前掲書、p.6
- 14) 工藤、前掲書、p.455
- 15) 金、前掲書、p.446
- 16) この分類では、親と子が一緒に知り合った場合の扱いが難しい。そのため、親と子が一緒に知り合った場合には、関係を形成する動機から考える。例えば、公園デビューの場合は、子どものことを考えて母親が行うことと考えるので、子どものことを考えた関係にあてはまる。

## 引用・参考文献

- アミーカ『子育てママのおつきあい完璧マニュアル』メイツ出版、2001
- 安藤香織、佐藤美礼「未就学児を持つ母親の SNS 利用とソーシャル・サポートの関連」『日本発達心理学会第 24 回大会発表論文集』2013、p.213
- 實川慎子・砂上史子「就労する母親の「ママ友」関係の形成と展開—専業主婦との比較による友人ネットワークの分析—」『千葉大学教育学部紀要』第 60 巻、2012、pp.183-190

- 實川慎子・砂上史子「母親自身の語りにみる「ママ友」関係の特徴—相手との親しさの違いに注目して—」『保育学研究』第 51 巻第 1 号、2013、pp.94-104
- 上長然・大元誠・中島範子・篠原一彦・網谷綾香・津上佳奈美「高校生女子におけるライフイベントと友人関係の継続関連」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』第 18 巻第 2 巻、2014、pp.41-48
- 金昌震「大都市における子育て支援の現状と課題：札幌市事例を中心に」『北海道大学大学院文学研究科 研究論集』第 13 号、pp.437-451
- 近藤明代「母親の認識の変化をもとにした地域における育児教室のあり方の検討」『小児保健研究』第 65 巻第 3 号、2006、pp.448-455
- 工藤遥「都市の育児援助システムにおける「子育てサロン」の機能」『北海道大学大学院文学研究科 研究論集』第 13 号、2013、pp.453-474
- 宮木由貴子「「ママ友」の友人関係と通信メディアの役割—ケータイ・メール・インターネットが展開する新しい関係—」第一生命経済研究所『ライフデザインレポート』第 159 巻、2004、pp.4-15
- 本山ちさと『公園デビュー 母たちのオキテ』学陽書房、1998
- 中村真弓「幼児をもつ母親のネットワークに関する一考察（8 発達と教育、自由研究発表、発表要旨）」『日本教育学会大会研究発表要項』第 65 巻、2006、pp.114-115
- 中村真弓「幼稚園児をもつ母親ネットワークに関する研究」『尚絅学園研究紀要』第 1 号、2007、pp.1-10
- 中尾達馬・原田有紀「育児中の母親だけが経験する特異的な人間関係（ママ友関係）の諸特徴—ママ友の数、子どもの数に焦点を当てて（口頭セッション 43 母親の不安）」『日本教育心理学会総会発表論文集』第 52 巻、2010、p.480
- 中山満子「ママ友という対人関係（特集 母親の育児不安に対処する）」『月刊地域保健』第 42 巻第 3 号、2011、pp.52-55
- 中山満子・池田曜子「ママ友関係における対人葛藤経験とパーソナリティ特性との関連性」『パーソナリティ研究』第 22 巻第 3 号、2014、pp.285-288
- 西浦真喜子・大坊郁夫「同性友人に感じる魅力が関係性継続動機に及ぼす影響：個人にとっての重要性の観点から」『対人社会心理学研究』第 10 巻、2010、pp.115-123
- 岡田努「現代青年の友人関係に関する新たな尺度の作成：傷つけあうことを回避する傾向を中心として」『金沢大学人間社会研究域人間科学系』第 4 巻、2012、pp.19-34
- 岡本依子・菅野幸恵・亀井美弥子「公園デビューについての見方：育児経験者および非経験者への面接を通して」『日本保育学会大会研究論文集』第 53 巻、2000、pp.792-793
- 岡本依子・亀井美弥子・菅野幸恵「195 公園デビューと地域子育てにおける公園の役割：育児中の親および育児非経験者への面接を通して」『日本保育学会大会発表論文集』第 55 巻、2002、pp.390-391
- 大森宣暁・谷口綾子・真鍋陸太郎・寺内義彦「子育て中の母親の外出行動とバリア」『土木

計画学研究・講演集』第 39 卷、CD-ROM

- (掲載ページ [http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00039/200906\\_no39/pdf/263.pdf](http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00039/200906_no39/pdf/263.pdf))、2009  
大野正人・服部勉・五十八進士「乳幼児連れの母親の公園利用実態からみた公園デビュー  
に関する一考察」『ランドスケープ研究:日本造園学会誌』第 61 卷第 5 号、1998、pp.785-788  
関井友子・斧出節子・松田智子・山根真理「働く母親の性別役割分業観と育児援助ネット  
ワーク」『家族社会学研究』3 卷、1991、pp.72-84  
武市久美「子育てにおける SNS 利用について—「ママ友」コミュニケーションに着目して  
—」『東海学園大学研究紀要 人文科学研究編』第 19 卷、2014、pp.79-89  
上田公代「乳児を持つ母親の育児に対する否定的感情と子育て支援に関する研究」『熊本大  
学医学部保健学科紀要』第 3 卷、2007、pp.25-35  
山田隆「子育てにおけるインターネット利用～携帯電話による子育てホームページ」『東海  
女子大学紀要』第 25 卷、2005、pp.151-162  
山中一英「大学生の友人関係の親密化過程に関する事例分析的研究」『社会心理学研究』第  
13 卷第 2 卷、1998、pp.93-102

#### 引用・参考 URL

- 育児・出産ナビホームページ「育児教室とは？」(<http://clawma.com/ikuji001/031.htm>)  
最終アクセス日 2015 年 1 月 12 日  
ニッセン「育児に関する意識調査」2014 (<http://present.nissen.co.jp/doc/release/20141010-1017.pdf>) 最終アクセス 2015 年 1 月 12 日

## 第2章 新聞記事で語られるパパ友

前章では、先行研究からママ友の特徴を確認し、ママ友には、子どもを介さない元々の友人である関係と、子どもを介しているが母親どうしで親しい関係と、子どもを介しており子どものために付き合っている関係の3つの関係があるということを明らかにした。子どもを介する関係の場合、ママ友との付き合いに難しさを感じている母親もいる。一方で、ママ友は育児に関する主要な相談相手や情報源であった。ママ友の特徴とともに、実際のパパ友の特徴と比較する対象として、本章では新聞記事で語られているパパ友の特徴を明らかにする。

新聞記事は、記者が目にしたものを、記者の解釈であらわしたものである。さらに、それは多くの人が目にする媒体である。このような特徴をもつ新聞記事を見ることで、読者に何を思わせたいのかということ、あるいは考えさせたいのかということを見ることができる。

### 第1節 調査目的

実際のパパ友の特徴を明らかにするための比較対象として、本来はママ友だけでなく、パパ友に関する先行研究から明らかにしたパパ友の特徴を整理したいと考えていた。しかし、パパ友に関する先行研究はほぼ存在しなかった。そこで本章では、マスメディア上で流通するパパ友イメージを比較対象とするために、新聞記事で語られているパパ友の特徴を明らかにする。

### 第2節 調査方法

データベース公開サービスを通して検索が可能であった読売新聞と、朝日新聞の2社の新聞記事からパパ友に関する記事を検出し、新聞記事で語られているパパ友の特徴を明らかにする。

読売新聞におけるパパ友に関する新聞記事は25件、朝日新聞におけるパパ友に関する新聞記事は26件確認できた。初めてパパ友に関する新聞記事が掲載されたのは読売新聞が2007年<sup>1)</sup>、朝日新聞が2002年<sup>2)</sup>であった。

表1 パパ友に関する新聞記事の分類ごとの記事数

	①イベント紹介	②生活	③サークル	計
2002		1		1
2003				
2004				
2005	1			1
2006				
2007				
2008	1	1		2
2009	1	2		3
2010	3	3		6
2011	5		2	7
2012	1	1	2	4
2013		1	1	2
2014	6	4	1	11
計	18	13	6	37

(『朝日新聞』『読売新聞』のパパ友に関する新聞記事より筆者作成)

パパ友に関する新聞記事の年代ごとの数をみると、2010年あたりから記事数が増え始め、2014年が最も記事数が多いことから、パパ友は新しい話題であることがわかる(表1)。新聞社2社の新聞記事計51件には、父親を対象としたイベント紹介に関する記事(18件)<sup>3)</sup>、育児を行う父親の体験談や生活を紹介する記事(13件)、父親の育児サークルそのものの紹介や活動内容に関する記事(6件)などがみられた<sup>4)</sup>。また、パパ友に関する全ての新聞記事において、パパ友がいることによる弊害等、パパ友に対する否定的な記述はみられなかった。

新聞というメディアは、アジェンダ・セッティングの機能をもつことに留意して内容を検討する必要がある。アジェンダ・セッティングとは、どのような情報を、どれほどの重要度をもって知り、またどのような議論をするべきかを提供する機能のことである<sup>5)</sup>。この機能は、時に読者が自らの考えを決定する上で着目すべき点を与えることになる<sup>6)</sup>。本章では、新聞がもつアジェンダ・セッティングに着目し、新聞記事の分析を行う。

### 第3節 結果及び考察

新聞記事で語られていたパパ友には、第1に、パパ友は父親の育児参加を促進する、第2に、パパ友は父親にとって育児に関する相談相手である、第3に、パパ友は新しく作るべき関係であるという3点の特徴がみられた。



## 第1項 父親の育児参加の促進

14 件の新聞記事において、パパ友は、父親の育児参加を促進する有効な手立てとして扱われていた。パパ友をつくることはイクメンを増やそうとする取り組みの一環として語られている。

育児に積極的に関わる男性を「イクメン」と言い、注目が集まっている。ただ、厚生労働省が23日に発表した昨年度の育児休業の取得率を見ると、育休を取った男性は2.03%で、前年よりやや増えたとはいえ、まだわずか。母親同士の「ママ友」のように、悩みを打ち明ける周囲とのつながりも乏しく、支援が必要だと指摘する声が増えている。...（中略）...市主催の子育て講座を受講した男性たちが、父親たちの子育て相談に応じていた。...（中略）...この日、相談員を務めた市職員の岸田諭祀さん（44）は自身の経験から、「保育園は共働きの夫婦が多いので、親が集まって話すような場が少ない。一方、幼稚園は専業主婦の母親が多く『パパ友』をつくろうと思ってもきっかけがない」と指摘。そうした父親たちのつながりをつくり、父親同士が話す機会を増やそうと、同グループ【子育て支援グループパパスマイル四日市：筆者補足】は市内で月2回程度、父親が子ども連れで参加できる相談会などを開いている。

（「[Wのミカタ] イクメン同士 相談 つながりをつくる機会を＝三重」『読売新聞』2014年6月25日朝刊、p.35）

新聞記事上では、パパ友自体が主要な話題になるよりも、イクメンという話題性の高い存在に付随した関係としてパパ友について言及される。

イクメン育成やパパ友づくりの取り組みが模索されているように描かれていることからすれば、パパ友は実際のニーズに沿った関係というよりも、育児に積極的に関わる父親を増やすという社会的な目標達成の手段である。このような立場はしばしば子育て支援団体のイベントを紹介する記事にみられるものであり、パパ友が語られる背景には、母親が育児負担の大部分を担うことや、父親が育児に積極的ではないことに対する問題意識が含意されているといえよう。イベントでは父親どうしの関係をつくることに重きが置かれているようであるが、パパ友づくりを目指すイベントは、パパ友ができることと育児に積極的に参加することの関連性を疑わない。

2010年の朝日新聞の記事「(実況見聞 あれこれレポート) 我らイクメン修行中 遊び方・家事学ぶ／奈良県」でも「『パパ友』の輪を広げ、育児にも積極的に参加してもらおうという狙いで」<sup>7)</sup> 父親グループによる調理実習イベントが企画されている。

奈良市でもイクメンを育てるイベントがあった。同市内の子育てサークル同士の交流活動に取り組む「なら子育てネットワーク」が企画した「ファミリーサークルパパごはん」だ。父親がグループで調理実習をしながら「パパ友」の輪を広げ、育児にも積極的に参加してもらおうという狙いで、4月から毎月開いている。

(「(実況見聞 あれこれレポート) 我らイクメン修行中 遊び方・家事学ぶ／奈良県」『朝日新聞』2010年8月2日朝刊、p.17)

イベントが父親グループによる調理実習であることを考慮すれば、パパ友をつくるというねらいは活動に即したものであるが、イベントと関連のないようにみえるねらいである育児への積極的な参加に資すると考えられる部分は「パパ友」の輪が広がるということに付随すると考えるほかはない。

では、なぜパパ友をつくれれば育児への積極的な参加が進むと考えるのだろうか。2014年の読売新聞の記事「[Wのミカタ] イクメン同士 相談 つながりをつくる機会を＝三重」では、母親が育児する存在であるという前提と、母親にあるようなママ友関係に類するものが父親にはないという不在を根拠としている。

記事では、男性の育児休業取得率の低さが指摘され、厳密には問題点を並べているだけではあるが、関連性を含意するかのように「母親同士の「ママ友」のように、悩みを打ち明ける周囲とのつながりも乏しく、支援が必要だ」<sup>8)</sup> という見解が紹介されている。この記事でもイクメンを増やすことと父親たちのつながりをつくることの間に関連性を想定している。父親の育児の悩みを相談する場所が乏しく支援が必要だという記述は、育児不安を軽減するママ友の機能からの類推であろう。この類推が、新聞記事で語られるパパ友の第2の特徴である、育児の相談相手という特徴を構成する。

## 第2項 育児に関する相談相手

10件の新聞記事で、パパ友は父親の育児に関する相談相手という特徴がみられた。このイメージは、パパ友をつくろうと企画する側にも、実際の父親の言葉にも登場する。パパ友に対する悩みの相談が意味する範囲は広く、お互いの共感を重視する程度のものから、実際に役立ったものとしてまで記述に幅はあるが、パパ友が存在する主要な意義は、子育て特有の悩みを理解し、支え合える関係性をつくることである点は一致している。

2011年の読売新聞の記事「[なっ解く] 付き合い「パパ友」の輪広げる 育児や地域の情報交換」では、市のイクメンスクールの担当者が、悩みや喜びを共有し、支え合う関係であるパパ友を作る意義を説明している。

男性の育児参加が進むとともに、子育て中の父親同士が友だちづきあいをする「パパ友」の輪が広がっています。…（中略）…スクール【横浜イクメンスクール：筆者補足】の目的のひとつがパパ友づくりだ。「子育ての悩みや喜びを共有し、支え合ってもらえれば」（同市こども青少年局）という。

（「[なっ解く] つきあい「パパ友」の輪広げる 育児や地域の情報交換」『読売新聞』2011年11月17日朝刊、p.17）

また、2010年の読売新聞の記事「[考えよう・お父さんの子育て]（下）妻に言いにくい悩みも気軽に相談（連載）」では、「子育ての疑問や悩みを気軽に相談できる仲間もできた」という、実際に父親団体に参加した父親のコメントを紹介している。

小学校に通う児童の父親らでつくる「本一こども応援隊 パパレンジャー」のボウリング大会での一コマだ。…（中略）…転勤族で、知り合いが近所にいなかったという会社員の三好裕輝さん（43）は「入隊したことで、妻には言いにくい子育ての疑問や悩みを気軽に相談できる仲間もできた。子どもとの距離も縮まった」と言う。

（「[考えよう・お父さんの子育て]（下）妻に言いにくい悩みも気軽に相談（連載）」『読売新聞』2010年4月3日朝刊、p.17）

この記事では、「妻には言いにくい子育ての疑問や悩み」と妻ではない点が強調されているが、新聞記事上でのパパ友は、子育てに関して理解しあえる同性の親としての意義を評価されている。パパ友は父親の他の友人とは異なり育児を軸にした関係であるために、育児に関する相談相手として期待され、パパ友をもつ父親も意義を実感しているように語られている。

### 第3項 新しくつくる関係

18件の新聞記事で、パパ友は新しくつくる関係という特徴がみられた。これまでもしばしば登場したように、父親にとってのパパ友はつくられることが社会的に望まれる関係性である。実際に父親がパパ友の意義を実感している場合にせよ、社会的な課題として行政や子育て支援団体が進める関係であるにせよ、パパ友はママ友のように疲れる関係といった否定的な描かれ方をすることはない。

2011年の読売新聞の記事「育てイクメン 一緒に体操 田辺で教室＝和歌山」は、親子参加の子育て支援イベント「おとうさんといっしょ」の目的の一つを、地域で「パパ友」をつくってもらうことだとしている。

父親が子どもと一緒に運動を楽しむ子育て支援イベント「おとうさんといっしょ」が26日、田辺市上屋敷の市中部公民館で開かれ、親子約50人が参加した。父親の積極的な子育て参加を促すとともに、地域で「パパ友」を作ってもらおうと、県教委などが主催した。

(「育てイクメン 一緒に体操 田辺で教室＝和歌山」『読売新聞』2011年2月27日朝刊、p.29)

記事のように県教委は政策的にパパ友づくりを進めている。

さらに、2011年の朝日新聞の記事『「パパ友」広がる輪 和歌山市主催「子育てひろば」好評 市「気軽に来て」／和歌山県』では、和歌山市の主催のする「子育てひろば」が好評であり、「親同士の友達作りにも活用」されている、とそれらが肯定的な関係であることを含意するポジティブな表現をちりばめている。

パパ友作りませんか。和歌山市が各地域で小さな子どもと親の交流の場として開いている「子育てひろば」が好評だ。子どもの遊び場だけでなく、近所に子どもがいない親同士の友達作りにも活用されている。

(『「パパ友」広がる輪 和歌山市主催「子育てひろば」好評 市「気軽に来て」／和歌山県』『朝日新聞』2011年2月9日朝刊、p.27)

他の点ではママ友との類似からパパ友の意義を説明しているにもかかわらず、パパ友はポジティブでつくるべきものとしてのみ切り取られている。これは、記事の背景にある父親の積極的な育児の促進という社会的な目標の存在を明確に示している。

#### 第4節 まとめ

新聞記事上にみられるパパ友には、父親の育児参加を促進する要因となっていること、育児に関する相談相手であること、新しくつくる関係であること、という特徴がみられた。これらの特徴から、結果としてパパ友はイクメンを増やすためのひとつの手立てとして語られているといえる。パパ友という新しい関係を作ることにより、そこで育児に関する悩み相談ができるというある種ママ友と類似した機能がパパ友には期待されている。そして、育児に関する悩みを相談することができるパパ友という関係があれば、父親も母親と同様に育児に参加するようになるという考えが、新聞記事では語られていた。

#### 注

- 1) 「[支え合って子育て] 投稿特集 ママ友・パパ友、いますか」『読売新聞』2007年1月29日朝刊「生活 B」p.17
- 2) 「パパ育休、もっと気軽に なぜ増えぬ? 体験者に聞く【大阪】」『朝日新聞』2002年11月1日朝刊「くらし」、p.29

- 3) 括弧内はいずれも新聞記事の件数を表している。
- 4) その他には、NPO 法人ファザーリング・ジャパン・ファウンダー副代表の安藤哲也氏の講演やコラム等 (5 件)、父親手帳の作成など自治体の取り組み (4 件)、新聞のコーナーの紹介 (3 件)、健康優良児に関する記事 (1 件)、近所つきあいに関する記事 (1 件) などがみられた。
- 5) 小早川護「調査・コンサルティングの研究者の立場から」高井潔司編『公開講座 新聞の読み方・書き方 メディアリテラシー入門』興国印刷、2002、p.144
- 6) 小早川護、同前書
- 7) 「(実況見聞 あれこれレポート) 我らイクメン修行中 遊び方・家事学ぶ／奈良県」『朝日新聞』2010 年 8 月 2 日朝刊、p.17
- 8) 「[W のミカタ]イクメン同士 相談 つながりをつくる機会を＝三重」『読売新聞』2014 年 6 月 25 日朝刊、p.35

#### 引用・参考文献

- 石井クンツ昌子『「育メン」現象の社会学—育児・子育て参加への希望を叶えるために—』ミネルヴァ書房、2013
- 伊藤直哉「メディアリテラシーとは何か？」高井潔司編『公開講座 新聞の読み方・書き方 メディアリテラシー入門』興国印刷、2002、pp.1-18
- 柏木恵子『父親になる、父親をする—家族心理学の視点から』岩波書店、2011
- 小早川護「調査・コンサルティングの研究者の立場から」高井潔司編『公開講座 新聞の読み方・書き方 メディアリテラシー入門』興国印刷、2002

#### 引用・参考 URL

- 厚生労働省「「イクメンプロジェクト」サイトを開設しました」(<http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/06/tp0618-1.html>) 最終アクセス 2015 年 1 月 23 日
- 横浜市子ども青少年局企画調整課「パパスクール情報」(<http://hamadaddy.city.yokohama.lg.jp/school/>) 最終アクセス 2015 年 1 月 27 日

#### 引用・参考新聞記事

- 「「安心面」が来週から変わります (社告)」『読売新聞』2009 年 3 月 24 日夕刊、p.4
- 「父親同士の連携 必要性を確認 九州・山口サミット＝福岡」『読売新聞』2011 年 6 月 21 日朝刊、p.30
- 「男性育休取得に千葉市が奨励金＝千葉」『読売新聞』2014 年 2 月 27 日朝刊、p.33
- 「(フロントランナー) ファザーリング・ジャパン代表理事 安藤哲也さん」『朝日新聞』2009 年 2 月 14 日朝刊、p.1
- 「(フロントランナー) 横浜市副市長・山田正人さん 子育てして変わった仕事観」『朝日新聞』

- 新聞』2010年5月8日朝刊、p.1
- 「父子家庭、孤立防げ 大震災...ママはお星様に 公的支援手薄、改善求める動き【大阪】」  
『朝日新聞』2011年8月26日朝刊、p.25
- 「[春便り] 日食がつなぐパパ友の輪」『読売新聞』2012年5月22日夕刊、p.14
- 「(はたらく気持ち) 1年休職した「イクメンの星」田中和彦」『朝日新聞』2014年6月14日朝刊、p.11
- 「[発言小町@新聞] 出産した後も「女」でいて」『読売新聞』2010年5月23日朝刊、p.15
- 「[ひと・まち・ふれあい] 三原市立西小学校 生きる力、地域で育む＝広島」『読売新聞』2009年9月27日朝刊、p.33
- 「[ほのぼの@タウン] 3月23日＝石川」『読売新聞』2014年3月23日朝刊、p.32
- 「(実況見聞 あれこれレポート) 我らイクメン修行中 遊び方・家事学ぶ／奈良県」『朝日新聞』2010年8月2日朝刊、p.17
- 「[自由時在] 永井充規さん 駅弁大会で地域振興」『読売新聞』2014年1月10日夕刊、p.4
- 「[考えよう・お父さんの子育て] (下) 妻に言いにくい悩みも気軽に相談 (連載)」『読売新聞』2010年4月3日朝刊、p.17
- 「観光親善大使につるの剛士さん 藤沢市／神奈川県」『朝日新聞』2012年4月7日朝刊、p.25
- 「[顔] 「パパ検定」を主催したNPO法人代表 安藤哲也さん」『読売新聞』2008年3月28日朝刊、p.2
- 「子どもの姿が見えなくなるとき 世界市民フォーラム in 神戸【大阪】」『朝日新聞』2014年6月1日朝刊、p.16
- 「(キタキュー力) 「育児パパ」3人の場合 “イクメン”すてきです／福岡県」『朝日新聞』2010年4月27日朝刊、p.25
- 「(こども) 「イクメン」パパの心得 まずは皿洗いから、妻に感謝伝えよう」『朝日新聞』2010年2月1日朝刊、p.27
- 「こども未来賞 港南区・佐藤さん 入選 育休パパの体験つづる＝神奈川県」『読売新聞』2014年1月27日朝刊、p.35
- 「子どもを亡くした悲しみ消えないけど...気持ち話して 石川・福井の団体が交流／石川県」『朝日新聞』2014年2月11日、p.32
- 「(ココロを紡ぐ つるが舞う:2) ギャル友はママ友 いつまでも大切な仲間／群馬県」『朝日新聞』2012年1月3日朝刊、p.33
- 「告知板／鳥取県」『朝日新聞』2014年9月10日朝刊、p.33
- 「子育てNAVI 県がHP開設＝和歌山」『読売新聞』2012年2月8日朝刊、p.30
- 「子育て楽しく、パパの輪 鳥栖で講座／佐賀県」『朝日新聞』2011年2月7日朝刊、p.21
- 「講座・講演 マリオン」『朝日新聞』2008年10月16日朝刊、p.7

- 「(下り坂の向こうに)「預ける」「預かる」結ぶ 藤沢市の子育て支援定着／神奈川県」『朝日新聞』2013年1月21日、p.33
- 「(まなぶ) お父さん盛り上げ隊 陰に仕掛け人 大正大学教授・西郷泰之／埼玉県」『朝日新聞』2012年4月24日朝刊、p.28
- 「亡き子悼む、心の輪 福井・石川の2団体交流 抱いた時のぬくもりが残る／福井県」『朝日新聞』2014年2月7日朝刊、p.26
- 「[なっ解く] つきあい「パパ友」の輪広げる 育児や地域の情報交換」『読売新聞』2011年11月17日朝刊、p.17
- 「[日曜の朝に] 近所つきあい 花見で確認」『読売新聞』2013年3月31日朝刊、p.21
- 「パパ育休、もっと気軽に なぜ増えぬ?体験者に聞く【大阪】」『朝日新聞』2002年11月1日朝刊、p.29
- 「『パパ友』広がる輪 和歌山市主催「子育てひろば」好評 市「気軽に来て」／和歌山県」『朝日新聞』2011年2月9日朝刊、p.27
- 「パパ友 語り合おう 25日、大阪・東成区で」『読売新聞』2011年9月15日朝刊、p.21
- 「パパ友の作り方・先輩の失敗談...父子手帳、さいたま市が一新／埼玉県」『朝日新聞』2014年3月13日朝刊、p.28
- 「パパと楽しむ、街へお出かけ 仲間つくって、あちこちに」『朝日新聞』2008年1月8日夕刊、p.7
- 「[支え合って子育て] 子連れ被災に備え 地域のつながり大切」『読売新聞』2007年1月8日朝刊、p.12
- 「[支え合って子育て] 投稿特集 ママ友・パパ友、いますか」『読売新聞』2007年1月29日朝刊、p.17
- 「(サザエさんをさがして) 健康優良児 「育ち」を競った時代」『朝日新聞』2011年5月7日朝刊、p.3
- 「生活充実、パパ友づくり 育児、地域の安全...話題も様々」『読売新聞』2009年3月31日夕刊、p.6
- 「育てイクメン 一緒に体操 田辺で教室＝和歌山」『読売新聞』2011年2月27日朝刊、p.29
- 「総局日誌／石川県」『朝日新聞』2012年4月4日朝刊、p.31
- 「[たまん] NPO法人「ダイバーシティコミュ」代表理事 森林育代さん＝多摩」『読売新聞』2012年8月6日朝刊、p.31
- 「[東京ホットぶれいす 2013] 我らパパ友戦隊＝東京」『読売新聞』2013年8月11日朝刊、p.28
- 「[Wのミカタ] イクメン同士 相談 つながりをつくる機会を＝三重」『読売新聞』2014年6月25日朝刊、p.35
- 「焼きいもかじり「パパ友」つくろう 父親の育児参加 企画始まる 県・NPO／埼玉

県」『朝日新聞』2005年11月17日朝刊、p.30

「よみうり子育て応援団@神戸 パパの力 磨こうよ お父さんの子育て=特集」『読売新聞』2010年6月1日朝刊、p.18

「[夕影] 12月17日」『読売新聞』2011年12月17日夕刊、p.9

「(2014年知事選 わたしの一議:5) 父子家庭支援のNPO創設、安藤哲也さん/東京都」  
『朝日新聞』2014年2月5日朝刊、p.29

「(360°) パパがお迎え、当たり前 独、2歳児の母 5割復職/国会 3割女性、保育で論戦」『朝日新聞』2014年11月2日朝刊、p.4



### 第3章 実態としてのパパ友

前章では、新聞記事で語られていたパパ友に、パパ友は父親の育児参加を促進する要因であること、父親の育児に関する相談相手であること、新しくつくるべき存在であることという3点の特徴があることを明らかにした。しかし、それらの特徴は、あくまでも現実を切り取り解釈したものであり、実際のパパ友の特徴を明らかにするには、追加の検討が必要である。そこで、本章では、アンケート調査及びインタビュー調査からパパ友の特徴を明らかにすることを目的とする。

#### 第1節 パパ友の特徴—アンケート調査から—

アンケート調査では、弘前市内の16園の幼稚園、保育所に通園している子どもがいる父親を対象とした。実施期間は2014年7月2日から9月24日であった。アンケートの配布数は1055枚で、そのうち回収できたのは429枚であった（回収率40.6%）。アンケート調査では大きく分けて友人とパパ友に対する質問を行った。友人に関する質問では、友人の有無、友人の人数、友人を1人から3人挙げさせそれぞれの友人と知り合った時期を尋ねた。パパ友に関する質問では、パパ友の有無、パパ友と知り合った時期、パパ友が欲しいかどうかを尋ねた。また、1人から3人あげた友人のなかにパパ友でもある友人がいるかどうかについても尋ねた。アンケート調査の対象者の年齢構成は次の通りである。

表1 アンケート調査回答者の年齢区分 (N=429)

年齢 (歳)	16-20	21-25	26-30	31-35	36-40	41-45	46-50	51-55	56-60	無回答
回答者 (人)	0	11	61	127	141	57	20	1	3	8
割合 (%)	0%	3%	14%	30%	33%	13%	5%	0%*	0%*	2%

注1：割合は少数第3位で四捨五入している。

注2：※は正確には0ではない。(51-55歳：0.2%、56-60歳：0.7%)

表2 パパ友の有無 (N=429)

	いる	いない	無回答
回答者(人)	160	210	59
割合(%)	37%	49%	14%

注1：割合は少数第3位で四捨五入している。

回答者として最も多いのは36から40歳、次に多いのは31から35歳であり、31歳から40歳までの回答者が6割を占めている(表1)。また、回答者のうちパパ友がいると答えたのは、160人(37%)であった(表2)。

アンケート調査の実施により明らかとなったのは、多くの父親はパパ友と子どもを介さない場所で知り合っていることと、父親はパパ友を友人の一形態として捉えているという

ことの2点である。

### 第1項 子どもとは関係なく知り合う

パパ友がいると答えた回答者が、パパ友と知り合った場所について尋ねたところ、17の  
カテゴリーに分類できた(表3)<sup>1)</sup>。

表3 パパ友と知り合った場所(全カテゴリー)(N=160)

	カテゴリー	人数
子どもに関係	子どもの通う保育所・幼稚園	32
	子どもの習い事	10
	学校行事	4
計		46
子どもに無関係	職場	48
	自分の高校	14
	同級生	13
	自分の小学校	12
	昔からの友人	12
	自分の中学校	9
	自分の専門学校・大学	7
	自分の幼稚園	3
	趣味の場	3
	取引先	2
	妻の友人	2
	計	
分類不可	近所	6
	その他	7
	無回答	11

これらの知り合った場所を、子どもに関係のある場所、無関係な場所に分類した(表4)。

表4 パパ友と知り合った場所(子どもに関係・無関係別)(N=160)

	子どもに関係	子どもに無関係	分類不可	無回答
記入個数	46	125	13	11
割合	29%	78%	8%	7%

注1: 割合は少数第3位で四捨五入している。

注2: 複数回答であるため、割合は100を越えている。

そのうち、子どもに関係のある場所で知り合ったのは46件、無関係な場所で知り合ったのは125件、分類が不可能な場所で知り合ったのは13件であった。子どもに関係した場所としては、子どもが通う幼稚園・保育所、子どもの習い事、子どもの学校行事があった。幼稚園・保育所でパパ友と知り合うのは、親睦会やイベント、子どもの送迎時であった<sup>2)</sup>。

パパ友と知り合う場所で子どもに関係のない場所のうち、父親自身の小学校や中学校などいずれかの学校段階のものを「学校関係」、父親の職場や仕事での取引先を「職場関係」として表したのが表5である。「学校関係」と「職場関係」の場所の割合は6ポイントの差こそあるが、ほとんど変わらない割合となっている。

表5 子どもに無関係な場所のうち、学校関係、職場関係(N=125)

	学校関係	職場関係	その他
記入個数	58	50	17 <sup>3)</sup>
割合	46%	40%	17%

注1: 複数回答である。

何らかの既存の関係が発展してできたパパ友は、父親どうしとして知り合った場合の約2.7倍にのぼっていた。子どもとは無関係な場所でパパ友と知り合う場合が多いことから、実際にはパパ友はもともとパパ友以外のなにかしらの関係であった人物が、パパ友に変化する場合が多いといえる。

## 第2項 パパ友は友人の一形態

アンケート調査において、パパ友が欲しいと思うかについて5段階評価で尋ねた<sup>4)</sup>。その結果、パパ友がいるかいないかにより、パパ友が欲しいと思うかも異なる傾向がみられ、パパ友がいる父親たちはパパ友が欲しいと回答する割合が高く、パパ友がいない父親は欲しいと思わないと回答する割合が高かった。

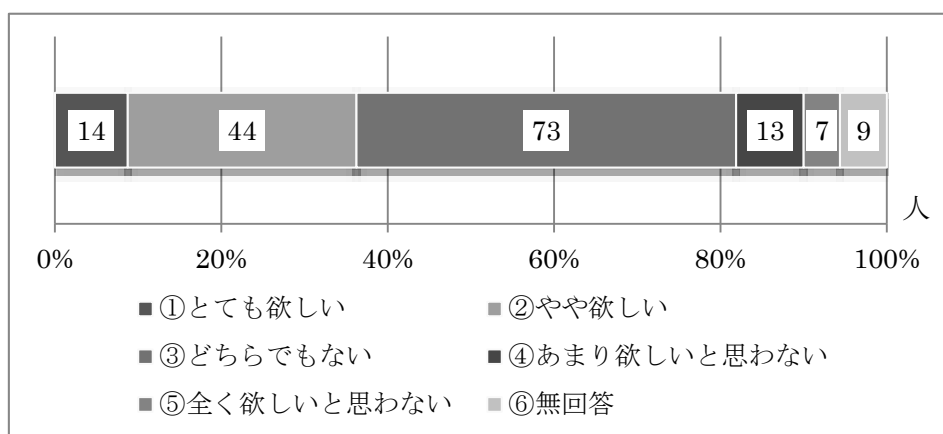


図1 パパ友は欲しいと思うか【パパ友がいる人】

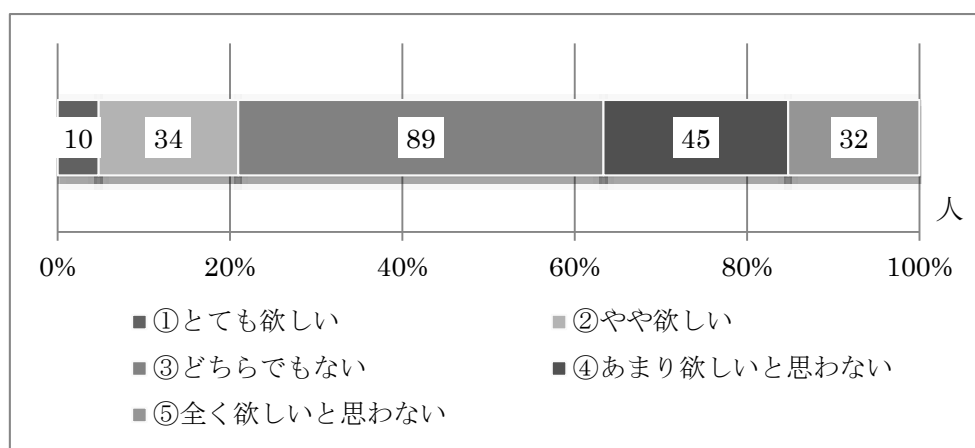


図2 パパ友が欲しいと思うか【パパ友がいない人】

この傾向がサンプルによる誤差の範囲内であるかを検定するために、カイ 2 乗検定<sup>5)</sup>を行った。その結果、両群間に強い有意差が認められた。(p<0.001)<sup>6)</sup>。このことから、パパ友がいる父親とパパ友がいない父親では、パパ友を欲しいかどうかに関して異なる傾向を示すといえる。

しかし、パパ友をもつ父親たちはパパ友だけを求めているとは限らない。例えば、パパ友がいるとした父親たちは、いないとした父親たちと比較して多くの友人関係をもちたいと考えている可能性もある。

この点を検証するために、パパ友がいるとした父親とパパ友がいないとした父親で、友人の人数に違いについて検討した結果、パパ友がいる父親のほうが平均の友人数が多いことが明らかとなった。

表 6 友人の数 (N=370<sup>7)</sup>)

	パパ友がいる	パパ友がいない
対象人数	160	210
平均	12.6	6.8
標準偏差	13.3	8.4
t 検定	0.000137811	

これらの平均の差が偶然のものではないかを確認するため t 検定を行ったところ、有意差が認められた ( $p < 0.01$ )。したがって、パパ友がいる父親といない父親では、友人数そのものに差があるということになる。

パパ友がいる父親の方が友人の数が多かったことから、もともと多くの人と友人関係を築く父親は、新たな友人関係の一種としてパパ友とも友人になりたいと考えることが想定できる。一方、もともとあまり多くの友人をもたない父親は、多くの友人を欲しいと考えるためパパ友が欲しいとも考えていない。

以上の結果から、パパ友の有無によりみられた差異は、パパ友の有用性を実感した結果であると解釈するよりも、もともと多くの人と友人関係を築くかどうかの差異によって生まれたものと解釈する方が適切であると考えられる。これは、父親にとってパパ友は友人の一形態であることを示唆している。

## 第 2 節 パパ友の特徴—インタビュー調査から—

父親がどういった人物を自身のパパ友とみなすのかということや、パパ友との関係はどのように作られ継続していくのか、どれほど親しい関係であるのかについては、アンケート調査では明らかにできなかった。そこで、アンケート回答者の中から 6 人に半構造化インタビュー調査を実施した。インタビューの実施期間は 2014 年 11 月 28 日から 12 月 9 日である。対象者は 6 人<sup>8)</sup>で、そのうちパパ友がいるのは 3 人、いないのが 3 人であった。表 7 は対象者の基本情報である。

表7 インタビュー対象者の基本情報

インフォーマント	年齢	子ども	パパ友いるか
A	47	2人	いる
B	44	2人	いない
C	33	3人	いる
D	34	2人	いない
E	46~50	1人	いる
F	41~45	2人	いない

質問内容には、友人に関するものとパパ友に関するものがあった。友人に関しては、知り合ったときの詳しい状況、連絡や接触機会について、パパ友がいるまたはいないとした判断基準、友人とパパ友の違い、子育てに関する相談を誰かにするかというものを設定した。

C以外の対象は、テレビでパパ友という言葉を目にしたことはあった。しかし、それが何なのかについては今回のアンケート調査のときに初めて考えたということであった。実際にパパ友がいる父親といない父親では、パパ友の特徴として考えることに違いがみられることが想定できる。そこで、まずは父親をパパ友の有無ごとに特徴をまとめ、その後パパ友の有無によってパパ友の特徴にどのような差がみられるのかを明らかにする。

### 第1項 パパ友がいない父親たちのパパ友イメージ

パパ友がいない父親たちがイメージするパパ友には、子どもどうしが同じ幼稚園や保育所に通っている、子どもどうしの交流のある関係であるなど、子どもどうしの関係が基盤となっているという特徴がある。図3は、パパ友がいない父親たちのイメージしたパパ友と友人、知り合いの関係モデルである。このモデルにおいては、パパ友は知り合いでも友人でもないそこそ親しい関係として表されている。それは、子どもどうしの関係を基盤とした人間関係と考えているためである。

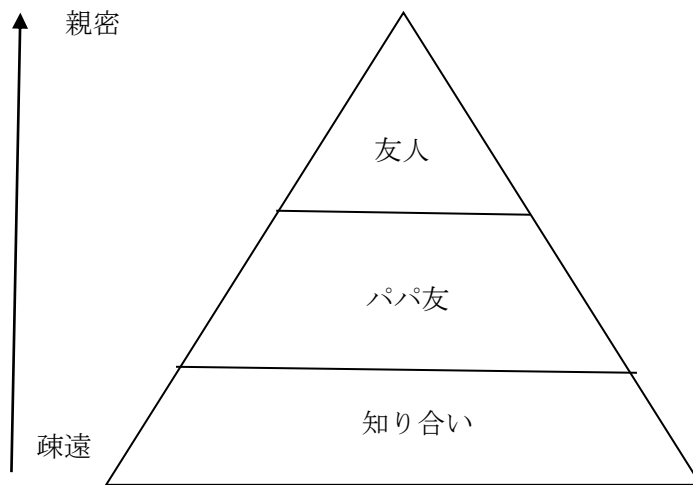


図3 パパ友がない父親のパパ友イメージ

## 1. 基盤としての子どもどうしの関係

### (1) 子どもどうしの幼稚園・保育所が同じ

パパ友がない父親たちはパパ友のことを、子どもどうしが同じ幼稚園や保育所に通っている父親であると捉えていた。パパ友とはどんな人のことだと考えているかという質問に対して、「パパ友ってなるのは、保育園のなかでの、保育園を通してのパパ友のことです (B)」「パパ友って、... (中略) ...同じ保育園の同じようなパパさん... (後略) (D)」「保育園とか小学校とか、なんかイベントあるでしょ。そのときに話してるうちに電話とか、メールとかしたりする (F)」と答えており、パパ友とは子どもどうしが同じ幼稚園や保育所に通う父親たちの間で形成される関係であると捉えている。

### (2) 子どもどうしを遊ばせる

子どもどうしを遊ばせる関係だと考えることも特徴のひとつである。「子どもどうしとか遊ばせたりとか。休みとかバーベキューしたりとか。... (中略) ...そういうのがパパ友なのかなって (F)」のように、子どもどうしで遊んだり、会ったりする機会をつくるのが、パパ友との間の関係において中心となる活動であると捉えている。D の場合も、なぜ子どもがいる他の友人はパパ友とは判断しなかったのかという質問に対して、「やっぱりパパ友ってなれば、... (中略) ...子どもどうしでも行き来あるようなところもあるのかな〜と (D)」と話し、子どもがいるだけでなく、子どもどうしでも交流があるような場合をパパ友だと捉えている。さらに、パパ友がいることの利点として「子どもらが仲良く遊んでるのが一番のメリット (D)」と話し、子どもどうしが交流をもち遊んでいることがパパ友の存在の

一番のメリットと捉えている。これらから、子どもどうして遊んだり、会ったりするなどの交流があることがパパ友の重要な特徴と考えられているといえる。

## 第2項 パパ友がいる父親にとってのパパ友

パパ友がいる父親にとってのパパ友の特徴を明らかにするために、A、C、E それぞれのパパ友のモデル化を行い、共通点と相違点を考察する。

### 1. Aにとってのパパ友

Aの知り合い、友人、パパ友の関係をモデル化すると図4のようになる。

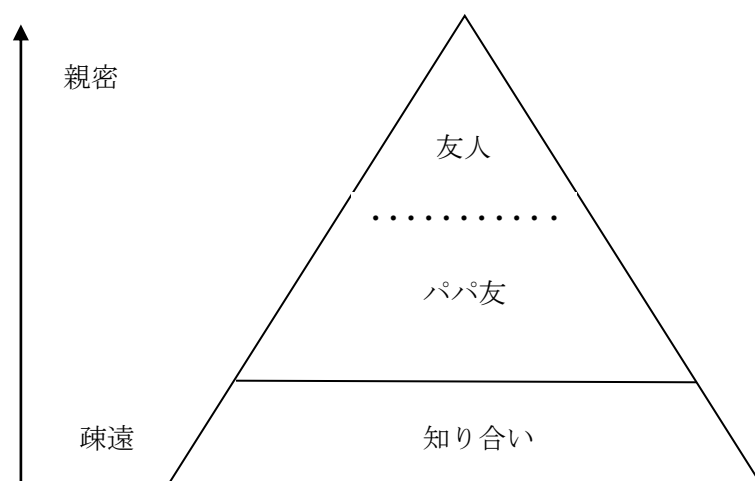


図4 父親の人間関係のなかのパパ友の位置づけ (A)

Aの場合、知り合いとパパ友の境界線ははっきりしているが、パパ友と友人の境界線は不明瞭である。

Aには2人のパパ友がおり、1人は小学校と高校の同級生で友人でもあるパパ友、もう1人は子どもの保育所で知り合ったパパ友である(図5)。

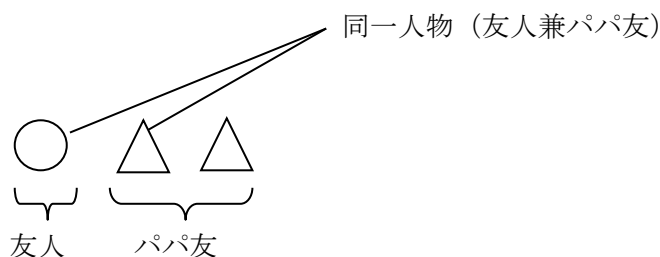


図5 友人関係にある父親の主観的分類 (A)



いずれも、弘前市内に在住しており、頻繁に会うことができる存在である。しかし、友人とは頻繁に会うのに対し、パパ友とはほとんど会わず保育所の送迎で会う程度である。

#### (1) 明確な知り合いとの区別

Aの場合、知り合いとパパ友や友人との境界は、商売相手のように表面的な関係だと捉えるかどうかで区別されている。

#### お客さんになる【知り合い】

車の話題になるともうそれって営業だなんて思っちゃうんですよ。もう仕事だなんていう範疇になるじゃないかなって思うんですよ。(A)

Aは子どもがいてもパパ友にならない人がいる理由について、仕事になると説明している。Aは車関係の仕事をしており、子どもの通う保育所で他の父親と車関係の話をしたことを例にあげ、相手のことを商売相手だと捉えるとそれはもうパパ友ではなくなるという考えを示している。

#### (2) 友人には自分から接触

一方で、友人とパパ友は変わらないとA自身は捉えているが、自分から連絡するのは友人のみであることから、友人とパパ友の間で親しさには違いがみられた。

#### パパ友と友人は変わらない

変わんねえと思う。たぶん変わんない、ただ子どもがいるだけ。であって、実は別に変わんないと思う。(A)

パパ友と友人の違いについて、Aは「ただ子どもがいるだけ」と答えている。しかし、パパ友と友人の接触機会は、友人のほうが多い。そのため、結果としてパパ友より友人のほうが親しいのではないかと考えられる。

#### お互いに連絡し合う【子どもがいない友人】

ですね。ばんばん連絡来ます。...(中略)...来ます・しますだし。(A)

#### 暇なときに電話をする仲【子どもがいない友人】

うん。たぶん、[自分が：筆者補足]暇だったんだと思います。...(中略)...例えばおれが仕事終わりました、で会社から家に帰るまでのあいだってわりと暇なので、ああ～ってかけてみたりとか。(A)

なぜなら、パパ友とは偶然会うだけなのに対し、子どもがいない友人（h）とは、お互いに連絡をし合うからである。hは、仕事柄繁忙期と閑散期がはっきりしており、「ばんばん」や「来ます・しますだし」という発言のように、友人の仕事が閑散期にあるときはお互いに連絡を頻繁にし合っている。また、hには特別に用事がなくても暇であれば自分から連絡をとるとしている。これらから、hに対しては、用事がなくても連絡をするという気軽さも読み取ることができる。

#### 自分から会いに行く【子どもがいない友人】

これに書いてないベースの担当のやつもいるんだけど、...（中略）...いついつここにいるけど、おれもみたいな。ただ、自分今度家庭もっちゃってるから、なかなか行けないんですよ。行きたくても。（A）

Aは、友人には自ら会いに行きたいと思い、会いに行っている。hやhとの共通の友人は未婚であり自由に集まれるが、Aは家族のことを考え、遊びに誘われても行きたくても行けないときもある。それでも、都合がつくときには自分から会いに行きたいと思い、会いに行く。

一方で、Aは自分からパパ友に会いに行くことはない。

#### 偶然会うだけ【友人兼パパ友】

たまたまその辺で会ったり程度ですよ。おお、って言う感じで。...（中略）...会ったらじゃあなって感じです。（A）

#### 保育所の送迎で会うだけ【パパ友】

保育園で朝しよっちゅう会いますけど、それ以外にはほぼと言っていいほどないですね。（A）

Aは以前、パパ友の家で家族も含めて鍋を食べたことがあったが、それ以外の交流は朝、子どもの送迎時に保育所で会うことだけである。

## 2. Cにとってのパパ友

Cの知り合い、友人、パパ友の関係をモデル化すると図6のようになる。

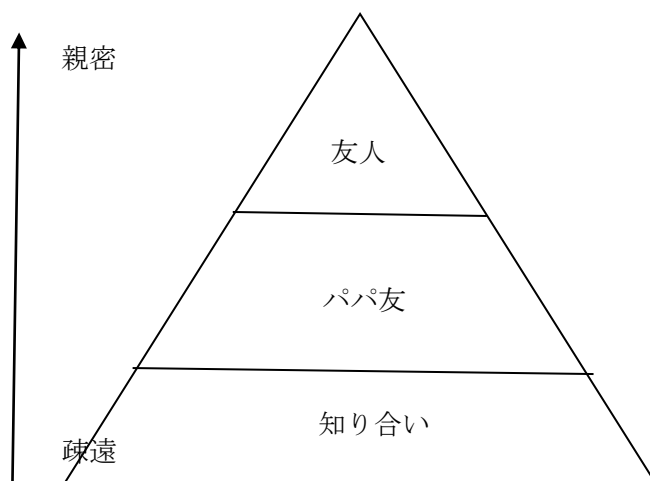


図6 父親の人間関係のなかのパパ友の位置づけ (C)

Cの場合、パパ友と友人の境界線は明瞭である。Cにとってのパパ友は、子どもに関する話をする相手や、子どもも交えて交流があるなど、子どもを介した関係であった。また、知り合いかパパ友かについてもはっきりと区別されていた。

Cには中学校の先輩で、仕事関係の集まりで再会し、子どもがいる友人（以下iとする）1人と、高校の後輩で子どもどうしが同じ保育所に通っていることで再会したパパ友が1人いる（図7）。

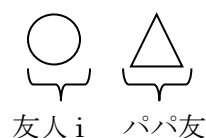


図7 友人関係のある父親の主観的分類 (C)

いずれも弘前市内に在住しており、頻繁に会うことのできる距離に存在している。しかし、友人とは普段から共に食事をする機会があるのに対し、パパ友とは子どもを交えたイベント時にしか会うことがない。

#### (1) 知り合いとパパ友の境界線

Cは知り合いとパパ友の間の境界線がはっきりとしている。パパ友以外に子どもがいる父親と知り合うことはあるが、「近くの公園でどうも一っという人はいますけど、パパ友っていう人はいないですね。(C)」のように、あいさつ程度の関係ではパパ友には入らないと捉

えている。

## (2) パパ友とは子どもが関わる関係

Cとパパ友との交流は、必ず子どもに関する話題や子どもどうしの関わりが伴っている。「子どもの話題がメインになると、そこからパパ友っちゃパパ友かなって (C)」や「【パパ友は：筆者補足】子どもに関しての会話がガチでできるような (C)」という発言から、Cはパパ友を子どもに関する悩みを共有する相手として捉えているといえる。

### 「ガチ」<sup>9)</sup> である子どもの話【パパ友】

私も子ども3人で、で向こうも子ども3人だし。で、なんかね、うちらの子どもはないけど、向こうの2番目の子が卵アレルギーだったかで、卵食えないんだば、何食うのよって感じで。あと、肺炎をやって入院したとかなんか。(C)

### 子どもの悩みの共有【パパ友】

悩みの解決じゃなくて、悩みの共有っていうのが。解決はしないことが多いんですけど。... (中略) ...みんながんばってるんだよって自分に言い聞かせられるような感じ。ちょっと他と比較して。... (中略) ...他のネガティブな情報に対して、こっちがちょっとポジティブにとらえるかみたいな。そういう感じであげていかないと、っていう気持ち。(C)

Cは子どもが小食であることに悩んでいたが、パパ友は子どもが卵アレルギーであったり、肺炎を患い入院したりしていてもネガティブに捉えていないことを知り、「みんながんばってる (C)」と思うことで、結果的に励まされていた。子どもの悩みを共有してポジティブに考えるきっかけとなることで、パパ友は育児をしているCの助けとなっていた。

### 仕事の話をする【子どもがいる友人】

仕事どうだ〜とか。それこそ、今【仕事関係のグループ】<sup>10)</sup>に私入ってなくて、その人まだ入ってるんですよ。で、今の【仕事関係のグループ】の感じどうなの?とか。(C)

一方で友人iとは、お互いの仕事に関する話をするとしている。iも子どもはいるが子どもの話はあまりしていない。友人と話す子どもに関わる話として、「小学生だったら、今こんな感じだよ、みたいな。DSばかりやってるよ、とか (C)」という話をあげているが、Cにとってこの話題は「ガチ」である子どもの話には入っておらず、子どもがいるだけではパパ友とみなしていない。

さらに、パパ友とは子どもを含んでしか交流がないのに対し、iとは、子どもを含まない2人での交流もみられた。

### 会うときはイベント【パパ友】

バーベキューとかイベントとか。ねふたあったときに、一緒に見たりとか、保育園の運動会とかで話すとか。(C)

パパ友とは、バーベキューやねふた祭り、保育所の運動会するときなどなにかイベントごとのときに子どもと一緒に会っている。それ以外では「年賀状でやりとりするくらい(C)」である。

一方で、iとは子ども抜きで、日常的に会っている。

### 職場へ出向き、一緒にご飯【子どもがいる友人】

ガソリンスタンドに私の車とかで油入れに行ったりとかして、そのときに車そっちのけで話したりとか。一緒に昼飯食ったりとか。(C)

iはガソリンスタンドで働いている。Cは、iのいるガソリンスタンドに行った際、夢中で会話を交わしたり、昼ごはんを2人で一緒に食べたりしている。会う約束をしていなくても、気軽に2人で会える関係である。

Cとパパ友の会話の主な話題は子どもに関するものであったことや、パパ友とは子どもを含んで交流するのに対し、iとは子どもを含まず2人で交流することから、Cはパパ友を子どもと一緒にいるときに関わる友人関係として捉えているといえる。一方、iとは子どもの話をあまりしないこと、約束をしなくとも会いにいける気軽な関係であることから、父親という関係で担保する必要のない程親しい関係であると考えられる。したがって、友人とパパ友の違いは、子どもと一緒にいる場合にのみ関わる関係かどうかで決定している。

### 3. Eにとってのパパ友

Eの知り合い、友人、パパ友の関係をモデル化すると図8のようになる。

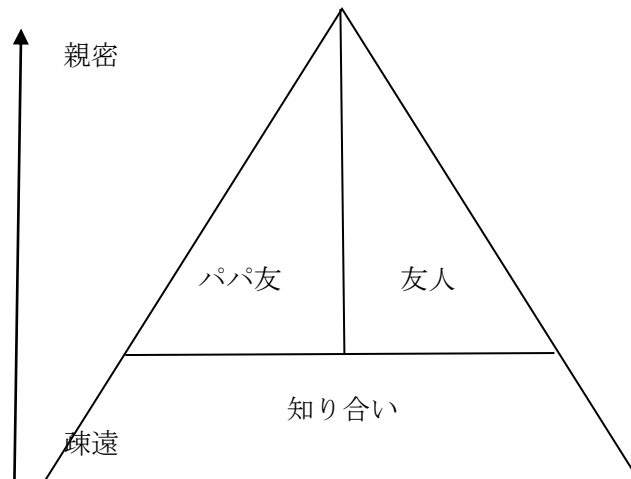


図 8 父親の人間関係のなかのパパ友の位置づけ (E)

Eにおいて特徴的なのは、親しさはjとパパ友で変わらないということと、パパ友とjを分けているのは、子どもどうしの親しさであるということである。

Eには高校からの同級生で高校卒業後も関係が継続している子どもがいる友人(以下jとする)と、仕事関係の集まりで知り合い、さらに子どもの通う幼稚園が同じである友人兼パパ友がいる(図9)。

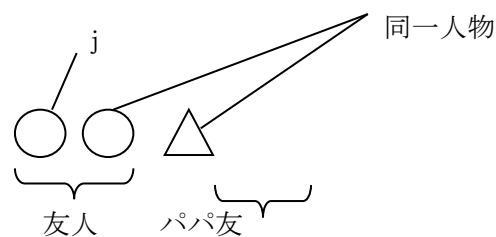


図 9 友人関係にある父親の主観的分類 (E) <sup>11)</sup>

いずれも弘前市内に在住しており、頻繁に会うことのできる距離に存在している。Eの場合は、友人であってもパパ友であっても同じように頻繁に交流している。しかし、友人とは異なりパパ友の場合には、子どもどうしも親しい関係である。

#### (1) 父親自身の親しさは変わらない

Eの場合、jとパパ友とで親しさに違いはみられなかった。違いについて、「ないな。私の感じ方では(E)」としており、E自身違いがないと考えている。

j、パパ友それぞれとの交流機会をみても、特別な違いはない。jとは高校時代からの友人で、お互い大学に進学し県外に出ているときにも、就職後も連絡を取り続け、現在も交流がある。一方、友人を兼ねているパパ友も、仕事関係の集まりで知り合い、「仕事関係の仲の良いメンバーで会ったりしますよ。(E)」としていることから、親しきは友人もパパ友も変わらないといえる。

さらに、インタビューを進めていく中で、E自身がパパ友と友人を混同していることから、親しさにそれほど違いがないといえる。Eは友人がいることについてのメリットを、「自分と違う価値観を、まあ同じ価値観もあるんだけど、違う価値観を学ばせてくれる、そういうことがいいところだと思います。(E)」と説明しているが、その後にはこれは誰についてのことかと尋ね返すと、「パパ友(E)」と答えている。Eにとっては、jもパパ友も変わらないことから、混同したのだと考えられる。

## (2) 子どもどうし親しいのがパパ友

一方で、子どもどうしの親しさについて注目すると、jとパパ友には違いがある。Eにとってのパパ友は「子どもたちの友達の共通のお父さん(E)」であり、子どもどうしが友人という親しい関係を築いていることが前提となっている。

さらに、E自身の子どもとパパ友の子どもは、「幼稚園で同じクラスでもあって仲が良い(E)」と述べており、子どもどうしの交流にも違いがある。

### 子どもどうしはイベントで交流【子どもをもつ友人】

それこそ地域のねふたとか、いろんなのを一緒にやったりしますね。...(中略)...あと、彼が主催する子どものイベントがあると、それに子どもを参加させたり。(E)

### 子どもが互いの家で遊ぶ【パパ友】

向こうの家に遊びに行ったり、泊まらせたりお互いしてます。...(中略)...それこそ、月1回そんな感じで遊ばせてる。うちは兄弟いないんで、向こうは兄弟3人もいるんで、その中でもませるためにも。(E)

jの子どもとEの子どもが交流をするのは、イベント時のみである。一方、パパ友の子どもとEの子どもは、月1回お互いの家に泊まりに行ったり、遊びに行ったりしている。

Eの場合、友人とパパ友に親しさの違いはみられなかった。その一方で、パパ友は子どもどうしが親しい父親のことであった。

## 第3項 小括

子どもがいない父親たちがイメージするパパ友は、子どもどうしの幼稚園や保育所が同じ、子どもどうしを遊ばせるなどの子どもどうしの関係を基盤として成り立っていた関係

であった。一方、実際のパパ友は、子どもに関連する接点をもつが子どもどうしの関係を基盤にしているとは限らない。典型的には、子どもが同じ幼稚園や保育所であったりするように、子どもどうしが関わっている関係がパパ友とされる。また、子どもどうしが関わらない場合にも、子どもや育児に関することが話題となる関係をパパ友としている場合もあった。親しさの点では、パパ友がいない父親たちのイメージでは、パパ友とは子どもを基盤として繋がっている関係であるため、友人ほど親しくない関係であった。一方、実際のパパ友の場合はいくつかのバリエーションがみられた。パパ友がいない父親のイメージするパパ友と同じように、パパ友との関係は子ども同士の関係を基盤としており、友人程親しくはない関係である場合もあった。それ以外にも、子どもどうしの関係を基盤にしているわけでもなく、親しい関係や、子どもどうしの関係を基盤としているが、友人と同じように親しい関係をパパ友としている場合があった。

さらに、パパ友がいない父親のパパ友イメージは、現状として子どもどうしの関係が基盤となっているだけでなく、子どもどうしの関係を基盤として形成された関係である。しかし、実際には、友人や仕事上の関係などの他の関係を基盤としてパパ友が形成されることが多く、これはアンケート結果とも一致している。

### 第3節 パパ友がいる父親たちに共通するパパ友の特徴

パパ友の間では、父親どうしとして子どもに関する悩みを相談したり、情報交換や助け合いをしたりすることもあるが、子どものためにより関係を維持しようとする付き合いの煩わしさは存在していないようであった。また、多くの場合、友人関係や仕事など既に存在する関係を基盤としてパパ友ができています。

これらを総合すると、パパ友との出会いとは、主に既知の人物のなかの子どもの父親としての側面との出会いであると考えられる。仕事の間や、子どもの送迎などで出会う関係のなかで接近した行為をもてる知り合いとの、父親どうしとしての付き合いこそがパパ友と表現される中心である。したがって、パパ友が友人と等しい重要さの関係でない場合には、パパ友とのやり取りは仕事や子どもの送迎、イベントなどの直接顔を合わせる場所でのその場限りのものになる。時には共通の趣味などが話題の対象になるが、職場や幼稚園、保育所で会うという状況に規定された人間関係のなかで選抜されている友人である点が、友人よりもパパ友のほうが疎遠な関係になりがちな理由と考える。

#### 第1項 他の関係を基盤として作られた関係

保育所で知り合った A のパパ友以外のパパ友は、友人関係や仕事関係など他の関係を基盤として作られている関係であった。パパ友は、友人関係や仕事関係での繋がりなどの既存の関係に、子どもが同じ幼稚園や保育所であるという新たな共通点が増えることで形成



されている。他者よりも密接に関わるための材料が増えることで、既知の人物との接点が強化され、パパ友として認識されたのであろう。そして、その関係は子どもの幼稚園や保育所で父親自身が好んで形成している関係であった。

## 1. 友人関係

既存の関係を基盤とする関係の代表的なものとして、友人関係を基盤としたパパ友がある。子どもの幼稚園や保育所が同じであるという新しい共通点が生まれることによって、パパ友としての関係が形成されるケースである。Cは、パパ友と高校時代の部活の先輩後輩として知り合い、子どもが通う保育所で再会している。父親にとって未開拓な環境である子どもの幼稚園や保育所のなかで、友人という他の人よりも一つ飛びぬけた関係をもつ人と、自他ともに心地よく過ごすために好んでパパ友の関係を形成していた。この関係は、新しい人間関係を形成する労力をかけていない関係ともいえる。

## 2. 仕事関係で繋がりのある関係

友人関係と同じく既存の関係として、仕事関係での繋がりがある。仕事関係を基盤とする場合、子どもの幼稚園や保育所が同じであるという新しい共通点が生まれ、パパ友としての関係が形成されていた。しかし、先程の友人関係を基盤とした関係の形成と異なるのは、パパ友の周囲の人々との関係である。友人関係を基盤とした場合は、既存の関係がない人のなかに友人関係という既存の関係をもつ人とパパ友の関係を形成していた。一方で、仕事関係で繋がりのある場合は、既に仕事上の繋がりがある人のなかで、子どもどうしが同じ幼稚園や保育所に通うという新しい共通点を見つけた人とパパ友になっていた。仕事関係での繋がりを基盤としたパパ友関係は、子どもの幼稚園や保育所で自他ともに居心地良く過ごすためにはもちろん、仕事上での関係も良好な状態で継続していくために好んで形成されている関係である。

## 第2項 大人どうしの関係

パパ友との関係は、子どものために行われるというよりも、仕事や子どもの送迎で出会う好意のもてる知人との間の関係であり、そのため大人どうしの付き合いの一形態である。子どもや育児に関する話題が中心となるのは、子どもをもつ父親としての話題が、最も無難で円滑に行える話題であるからである。

### 1. 父親であること

パパ友のいる父親は、悩みの相談としてではなくパパ友との関係を維持しようとして、パパ友と育児に関する会話を交わしていた。具体的には、育児に関する情報交換を行ったり、参考にするための意見を聞いたり、育児の悩みの共有などをパパ友との間で行っていた。これらの育児に関する話は、父親が抱える悩みを解決するための相談としてではなく、

父親どうしであれば交わすことのできる世間話のようなものであった。このような形で、パパ友との関係を維持しようとするのは、その関係があることで心地よさが生まれるからである。父親が自ら選んで形成した関係において、父親であるという共通点を活かして関係を維持させるためのひとつの方法として、会ったときに育児に関する話での交流がなされていた。

## 2. 子どもどうしで幼稚園・保育所が一緒

子どもが同じ幼稚園・保育所に通っていることで、送迎や親睦会などの機会に会ったときに話す、好意のもてる人物がパパ友であった。子どもの通う幼稚園や保育所で会う父親であり、好意のもてる友人という関係であるから、パパ友と表現されている。しかし、幼稚園や保育所で会うという場面限定の関係であることから、AやCのように関係が疎遠になる場合もあるといえる。また、子どもどうしの関係を強化したり、調整したりする機能はみられなかった。

## 3. 同じ趣味をもつ

典型的な例であるとはいえないが、同じ趣味をもった父親とパパ友の関係を形成していた場合もみられた。Aには子どもの通う保育所で初めて知り合ったパパ友がいるが、「まあ例えば保育園に行って、おお！みたいな感じで話...同じ趣味もってる人なんですよ。(A)」のように、趣味の話を共有してパパ友とコミュニケーションをとっている。この場合、子どもどうしの関係は、同じ保育所に通っている以上の重要性をもたない。

## 第4節 まとめ

アンケート調査とインタビュー調査から、パパ友の特徴を明らかにした。パパ友がいない父親のイメージするパパ友は、子どもどうしが同じ幼稚園や保育所であることや、子どもどうしを遊ばせることなどの子どもどうしの関係を基盤として形成される関係であった。実際のパパ友は、子どもどうしが関わっている場合だけでなく、子どもが関わらないで子どもや育児に関することを話題にするだけの、子どもどうしの関係のない場合も含まれた。また、親しさについては、パパ友がいない父親たちのイメージでは、子どもどうしの関係を基盤としている関係であるため、友人程親しくはない関係であった。実際のパパ友でも同様に、子どもどうしの関係を基盤としているため、友人程親しくはない場合もみられた。一方で、子どもを基盤としていなくても友人程親しくない関係もあった。それは、パパ友の場合は、友人と異なり子どもの幼稚園や保育所で会うなど状況に規定された人間関係のなかで選ばれている友人で、幼稚園や保育所などで実際に会う場面での交流が中心になるためと考えられる。そのような関係でも子どもや育児に関する話題が中心となるが、これはそれらの話題が父親に共通する無難な話題として機能するためである。父親の場合に知り合いとパパ友になることが多かったのは、どちらの場合も子どもどうしの関係づくりを

気にせず、関わりやすい相手とだけ関係を結んでいる結果といえよう。このような点から、パパ友に特徴的なのは、子どもとは無関係に、関わりやすい大人どうしがコミュニケーションするという大人どうしの関係という点である。

パパ友がいない父親のイメージでは、パパ友は子どもどうしの関係を基盤に形成された関係であった。しかし、実際のパパ友は、例外もみられたが、父親どうしの関係ではなく友人や仕事上の関係などの他の既存の関係をもとに形成された関係という特徴があった。アンケート調査でも、父親自身の学校や職場など子どもと無関係な場所で知り合った父親が約8割にのぼっており、子どもを介してパパ友を新しく作るというケースは少ない。

## 注

- 1) パパ友と知り合った場所については、記述式で尋ねている。
- 2) 自由記述のコメントから。
- 3) その他には、「昔からの友人」「趣味の場」「妻の友人」が含まれている。
- 4) 「とても欲しい」「やや欲しい」「どちらでもない」「あまり欲しいと思わない」「全く欲しいと思わない」の5段階で質問した。
- 5) カイ2乗検定とは、集団ごとのデータの差が、母集団の違いを意味するかを検定するためのものである。
- 6) 「どちらでもない」を①【欲しいと思う】に含めて、②【欲しいと思わない】に含めて、③除外しての計3回検定を行っているが、いずれにおいても有意差が認められた ( $p < 0.001$ )。
- 7) パパ友がいるかという質問に、無回答であった(59人)は除いている。
- 8) アンケート調査にて協力者を募り、その中から連絡がついた方を対象とした。
- 9) インタビュー中に、Cが使用していた言葉。真剣という言葉に類似する意味をもつと判断した。
- 10) 個人情報であるため、筆者修正。
- 11) Eには子どもをもつ女性の友人もいたが、Eがパパ友は父親であることを前提としていたので、今回は分析対象に含めない。

## 第4章 パパ友特有の特徴

アンケート調査及びインタビュー調査により明らかとなったパパ友の特徴は、実際の父親たちの考えを反映したものではあるが、その特徴のなかでもパパ友特有の特徴を明らかにするために、ママ友と新聞記事で語られているパパ友との比較を行う。

ママ友との比較を行うのは、ママ友もパパ友も親どうしの関係ということは共通しているが、それぞれの子どもへの関わり方の違いにより、親どうしの関係にも相違がみられるのではないかと推測しているためである。一方、新聞記事で語られているパパ友の特徴との比較を行うのは、新聞記事で語られるのはある種理想のパパ友イメージであり実際の父親たちにとってのパパ友とは相違がみられるのではないかと考えたためである。

したがって、本章では親どうしという関係は共通しているママ友、新聞記事で語られているパパ友との比較を行い、父親にとってのパパ友特有の特徴を明らかにする。

### 第1節 ママ友との比較

ママ友との比較をすることにより、パパ友とママ友の共通点として、親どうし以外の関係を基盤に関係を形成していることや、子どもどうしの関係を基盤としていることがあった。

第1に、実際のパパ友もママ友も、父親どうしあるいは母親どうし以外の他の関係を基盤に関係が形成されている場合があった。母親がママ友と知り合う場所として、保育園などの教育施設(35.6%)に次いで、同級生や同僚などの元々知り合い(27.9%)となっていることから<sup>1)</sup>、ママ友の場合にも母親どうし以外の関係を基盤に関係が形成されている場合は少なくない。一方、父親へのアンケート調査でも、約8割の父親がパパ友と父親自身の学校や職場などの子どもとは無関係の場所で知り合っていた。このことは、ママ友以上にパパ友は限定された状態で自分が心地よく過ごすための関係であることを示唆している。

第2に、実際のパパ友もママ友も、子どもどうしの関係を基盤にしている場合があった。ママ友との関係が子どもどうしの関係を基盤とした場合、親同士も親しい関係(図4、②)と、子どものために付き合う関係(図4、③)に分類できた。子どものために付き合う関係は、ママ友との付き合いに対して難しさを感じてはいるが、子どものことを考慮して付き合い合っている関係である。一方、パパ友との関係が子どもどうしの関係を基盤としている場合には、親自身も親しい場合と、友人程ではないが親しい場合があった。しかし、友人よりも親しくない関係であっても、それは父親が好んで形成した関係であり、心地よく過ごすために維持したいと考える関係であった。したがって、子どもどうしの関係を基盤とし、友人程の親しきがない関係であるとしても、ママ友にあるような子どものために難しさを感じながらも付き合い合っている関係ではない。

これらのことを踏まえて、パパ友のサブ・カテゴリーを表したものが図1である。

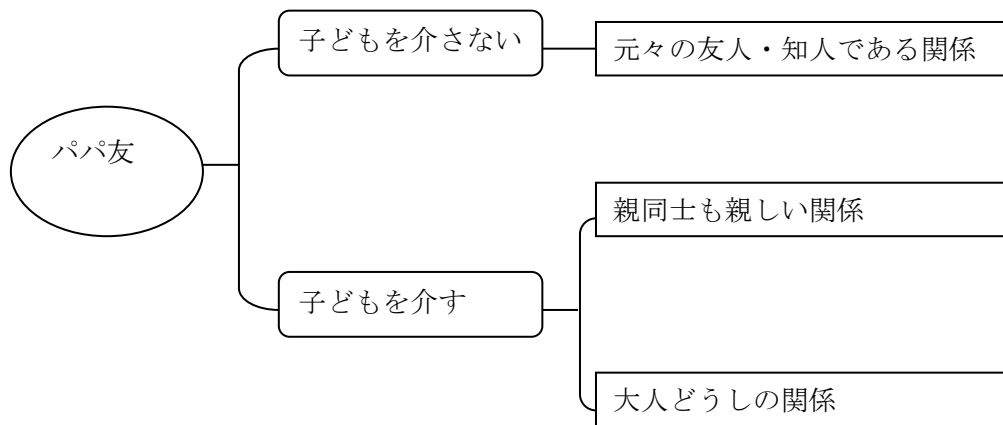


図1 パパ友の類型（筆者作成）

パパ友の場合にも子どもを介して知り合った場合と介さずに知り合った場合がある。ママ友と異なるのは、子どもを介して知り合った場合に親同士も親しい関係と、子どものために付き合う関係があった。しかし、パパ友の場合には、子どもを介して知り合った場合にママ友同様、親同士も親しい関係はあるが、子どものために付き合っている関係が存在していない。それに代わって、友人程ではないが親しい関係として大人どうしの関係が存在している。父親は親しさの程度は違っていても、パパ友と大人どうしの関係として良好な関係を築いている点で特徴的である。

## 第2節 新聞記事で語られているパパ友との比較

新聞記事で語られているパパ友と、パパ友がいない人のパパ友のイメージに差異はみられなかった。そして実際にCは、元々友人であったという点では異なっているが、子どもを介している関係という点で、典型的なイメージと一致するパパ友であった。ただし、イメージ通りのパパ友だけではないということがインタビューにより明らかとなった。

第1に、実際のパパ友は、あくまでも大人どうしの関係である。新聞記事で語られているパパ友は、育児に関する悩みの相談相手となり、父親の育児を促す存在であるために、関係を作ることが推奨されていた。実際に、父親はパパ友と育児に関する話題を交わしていた。しかし、それはパパ友との関係を維持するために、父親であれば共通してできる話題として話されていたものである。悩みを共有することで父親の助けとなることもあるが、悩みの共有が行われるのはパパ友との関係を維持することを目的として行われていた会話のなかであり、子どものための関係ではない。したがって、パパ友との間で交わされるのは、育児を行うにあたり役に立つような育児参加を促すという積極的な意味をもたないやり取りとなっている。

第2に、新聞記事で語られているパパ友は新しくつくる関係であり、父親を対象とした

イベントでパパ友としての関係作りのための取り組みがなされていた。一方で、アンケート調査からは、父親自身の学校や職場などの子どもとは無関係の場所でパパ友と知り合っている父親が約 8 割にのぼり、パパ友の多くが友人関係や仕事上の関係など、元々もっている他の関係を基盤に形成されていることが明らかになった。既存の関係が幼稚園や保育所でも接点をもつきっかけとなって、パパ友との関係が形成されている。なかには、幼稚園や保育所で初めてパパ友と知り合いとなる父親もいたが、このような新しく作られた関係であっても、新聞記事で語られているパパ友のように、育児に関する相談相手なり、父親の育児参加を促す存在ではなかった。このように、新聞記事では新しく作られる関係として語られていたが、実際のパパ友の多くは、父親どうし以外の既存の関係をもとにパパ友の関係は形成されていた。

### 第 3 節 まとめ

本章では、ママ友との比較と新聞記事で語られるパパ友の特徴との比較により、実際のパパ友の多くは、新聞記事で語られていたような新しくつくる関係ではなく、既存の関係を基盤としていたことを明らかにした。そして、パパ友にはママ友のなかにみられたような子どものために無理して付き合う関係はなく、父親どうしがそれ程親密でない場合にも、父親が日頃関わる人と心地よい関係を維持しようとしている大人どうしの関係となっているというパパ友の特徴を明らかにした。

実際のパパ友の多くは、新聞記事で語られていたような新しくつくる関係ではなく、友人や知り合いあるいは仕事上の関係など既存の関係を基盤に形成していた。既存の関係を基盤として関係が形成された場合は、子どもを介する関係も介さない関係も存在していた。子どもを介している場合には親どうしが親しい関係と、友人程親しくはないが親しい大人どうしの関係があった。しかし、友人程親しくないパパ友との関係であっても、それは父親が好んで形成した関係であり、心地よく過ごすために維持したいと考える大人どうしの関係であった。したがって、子どもを介したママ友との関係のなかにあるような、子どものために無理をして付き合う関係はパパ友と父親の間にはみられない。

子どもを介す関係のなかで、ママ友にだけ子どものために無理して付き合っている関係が生じているのは、母親が子どもの代わりに遊ぶ約束をしたりするなどの子どもどうしの関係を代理する機能を担っているためだと考えられる。一方、父親には付き合いの難しいパパ友が想定し難いのは、父親が母親のような子どもどうしの関係を代理する機能を伴っていないためだと考えられる。

### 注

- 1) ニッセン「育児に関する意識調査」2014 (<http://present.nissen.co.jp/doc/release/20141010-1017.pdf>) p.2

引用・参考文献

ニッセン「育児に関する意識調査」2014 (<http://present.nissen.co.jp/doc/release/20141010-1017.pdf>) 最終アクセス 2015年1月12日

## 終章

本研究では、パパ友の特徴を明らかにした。まず、多くの父親が、友人や仕事上の関係などの既存の関係を基盤としてパパ友の関係を形成していた。そして、パパ友との関係が子どもどうしの関係を基盤としている場合には、友人と同じように親しい関係と、友人程ではない親しさの関係とに分けられた。しかし、父親にとっては友人程親しくない場合でも、パパ友との関係は自分にとって心地よい関係として維持されていた。友人関係を基盤に関係を形成していた場合には、子どもの幼稚園や保育所で友人と再会し、他の父親よりも共通点を多くもっている人をパパ友として選択していた。また、仕事上の関係を基盤とした場合には、仕事仲間のうちで子どもの幼稚園や保育所が同じという共通点をもっている人とパパ友になっていた。このように、父親が自ら心地よさを求め形成する大人どうしの関係がパパ友特有の特徴となっている。一方、ママ友のなかで存在していた子どものことを考慮して無理に付き合う関係は、パパ友にはみられなかった。このような現状から、母親だけ無理して付き合うという負担を背負っているといえる。

しかし、この関係は母親にとって価値のない単なる負担ではなく、子どものためという特性をもつ関係であり、母親としてのアイデンティティ<sup>1)</sup>の一部となる関係とも考えられる。母親が子どもどうしの関係を代わりに行うことによって、子どもは他の子どもと楽しむ機会を得ている。母親が子どもを代理する機能を担うことで子どもを喜ばせることができているのである。無理して付き合っている場合にも、母親は子どもを喜ばせるためにこの関係を維持していると考えられる。

幼児がいる母親を対象にしたアンケート調査を行った山口（2010）は、母親が自分のことを一人前の母親と判断する際に獲得する必要のある特徴として、自分よりも子どもを優先して考えることをあげている<sup>2)</sup>。母親が自分自身を一人前と判断するということは、母親としての自己価値や肯定的な自己像であるアイデンティティが母親のなかに確立されることと同義である。このことから、自分のことよりも子どものことを考えママ友と付き合い子どもどうしの関係を代理している場合は、負担を感じると同時に、子どものために我慢しながら行動していることに母親としてのやりがいを感じ、子どもに尽くす母親としての肯定的な価値づけができ、母親としてのアイデンティティを確立することにつながると考えられる。

子どものために無理をして付き合うママ友との関係は、子どもへの影響を考えてだけでなく、現状として母親としてのアイデンティティの一部を成すものとなっている点でも、容易に解消できない関係となっている。しかし、この関係が母親の負担となっていることも事実である。子どものために無理をして付き合うママ友との関係は、負担となる関係という支障としての側面と母親としての肯定的な価値となる恩恵としての側面が共存する関係であり、このことが解消すべきか継続すべきかを決め難しくしている。実際にどのような手段で実現するかというところまでは踏み込めていないが、母親の負担を解消するためには、自分よりも子どもを優先するある種母親自身が犠牲となることによる母親としての価



値づけを行わないような、新しい母親アイデンティティの捉え方をすることが求められる。また、父親の場合には、パパ友との関係が父親にとって負担とならない関係であるならば、母親のように子どもどうしの関係を代理する機能を担ってもいいと考える。

#### 注

- 1) 一定の対象との間、あるいは一定の集団との間で、是認された役割の達成、共通の価値観の共有を介して得られる連帯感、安定感に基礎づけられた自己価値および肯定的な自己像を意味する（小此木「アイデンティティ」下中弘編『新版 心理学事典』平凡社、1981、p.3）
- 2) 山口雅史『母親になるということ—母親アイデンティティを巡る考察—』あいり出版、2010、p.35

#### 引用・参考文献

- 小此木啓吾「アイデンティティ」下中弘編『新版 心理学事典』平凡社、1981、p.3  
山口雅史『母親になるということ—母親アイデンティティを巡る考察—』あいり出版、2010

## 引用・参考文献

- アミーカ『子育てママのおつきあい完璧マニュアル』メイツ出版、2001
- 安藤香織、佐藤美礼「未就学児を持つ母親の SNS 利用とソーシャル・サポートの関連」『日本発達心理学会第 24 回大会発表論文集』2013、p.213
- 石井クンツ昌子『「育メン」現象の社会学—育児・子育て参加への希望を叶えるために—』ミネルヴァ書房、2013
- 伊藤直哉「メディアリテラシーとは何か？」高井潔司編『公開講座 新聞の読み方・書き方 メディアリテラシー入門』興国印刷、2002
- 實川慎子・砂上史子「就労する母親の「ママ友」関係の形成と展開—専業主婦との比較による友人ネットワークの分析—」『千葉大学教育学部紀要』第 60 卷、2012、pp.183-190
- 實川慎子・砂上史子「母親自身の語りにみる「ママ友」関係の特徴—相手との親しさの違いに注目して—」『保育学研究』第 51 卷第 1 号、2013、pp.94-104
- 上長然・大元誠・中島範子・篠原一彦・網谷綾香・津上佳奈美「高校生女子におけるライフイベントと友人関係の継続関連」『佐賀大学文化教育学部研究論文集』第 18 卷第 2 卷、2014、pp.41-48
- 柏木恵子『父親になる、父親をする—家族心理学の視点から』岩波書店、2011
- 金昌震「大都市における子育て支援の現状と課題：札幌市事例を中心に」『北海道大学大学院文学研究科 研究論集』第 13 号、pp.437-451
- 小早川護「調査・コンサルティングの研究者の立場から」高井潔司編『公開講座 新聞の読み方・書き方 メディアリテラシー入門』興国印刷、2002、p.144
- 近藤明代「母親の認識の変化をもとにした地域における育児教室のあり方の検討」『小児保健研究』第 65 卷第 3 号、2006、pp.448-455
- 小此木啓吾「アイデンティティ」下中弘編『新版 心理学事典』平凡社、1981、p.3
- 工藤遥「都市の育児援助システムにおける「子育てサロン」の機能」『北海道大学大学院文学研究科 研究論集』第 13 号、2013、pp.453-474
- 宮木由貴子「「ママ友」の友人関係と通信メディアの役割—ケータイ・メール・インターネットが展開する新しい関係—」第一生命経済研究所『ライフデザインレポート』第 159 卷、2004、pp.4-15
- 本山ちさと『公園デビュー 母たちのオキテ』学陽書房、1998
- 中村真弓「幼児をもつ母親のネットワークに関する一考察（8 発達と教育、自由研究発表 I、発表要旨）」『日本教育学会大会研究発表要項』第 65 卷、2006、pp.114-115
- 中村真弓「幼稚園児をもつ母親ネットワークに関する研究」『尚絅学園研究紀要』第 1 号、2007、pp.1-10
- 中尾達馬・原田有紀「育児中の母親だけが経験する特異的な人間関係（ママ友関係）の諸特徴—ママ友の数、子どもの数に焦点を当てて（口頭セッション 43 母親の不安）」『日本教育心理学会総会発表論文集』第 52 卷、2010、p.480

- 中山満子「ママ友という対人関係（特集 母親の育児不安に対処する）」『月刊地域保健』第 42 巻第 3 号、2011、pp.52-55
- 中山満子・池田曜子「ママ友関係における対人葛藤経験とパーソナリティ特性との関連性」『パーソナリティ研究』第 22 巻第 3 号、2014、pp.285-288
- 西浦真喜子・大坊郁夫「同性友人に感じる魅力が関係性継続動機に及ぼす影響：個人にとっての重要性の観点から」『対人社会心理学研究』第 10 巻、2010、pp.115-123
- 岡田努「現代青年の友人関係に関する新たな尺度の作成：傷つけあうことを回避する傾向を中心として」『金沢大学人間社会研究域人間科学系』第 4 巻、2012、pp.19-34
- 岡本依子・菅野幸恵・亀井美弥子「公園デビューについての見方：育児経験者および非経験者への面接を通して」『日本保育学会大会研究論文集』第 53 巻、2000、pp.792-793
- 岡本依子・亀井美弥子・菅野幸恵「195 公園デビューと地域子育てにおける公園の役割：育児中の親および育児非経験者への面接を通して」『日本保育学会大会発表論文集』第 55 巻、2002、pp.390-391
- 大森宣暁・谷口綾子・真鍋陸太郎・寺内義彦「子育て中の母親の外出行動とバリア」『土木計画学研究・講演集』第 39 巻、CD-ROM（掲載ページ [http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00039/200906\\_no39/pdf/263.pdf](http://library.jsce.or.jp/jsce/open/00039/200906_no39/pdf/263.pdf)）、2009
- 大野正人・服部勉・五十八進士「乳幼児連れの母親の公園利用実態からみた公園デビューに関する一考察」『ランドスケープ研究：日本造園学会誌』第 61 巻第 5 号、1998、pp.785-788
- 関井友子・斧出節子・松田智子・山根真理「働く母親の性別役割分業観と育児援助ネットワーク」『家族社会学研究』3 巻、1991、pp.72-84
- 高橋均「5. 父親向け育児・教育雑誌における父親像の分極化（IV-7 部会 家族と教育（2）、研究発表IV）」『日本教育社会学会大会発表要旨集録』第 65 巻、2013、pp.334-335
- 武市久美「子育てにおける SNS 利用について—「ママ友」コミュニケーションに着目して—」『東海学園大学研究紀要 人文科学研究編』第 19 巻、2014、pp.79-89
- 寺見陽子・藤本あゆみ「PE-008 父親の育児意識の変容と育児参加度に関する研究：10 年前との比較（発達、ポスター発表）」『日本教育心理学会総会発表論文集』第 55 巻、2013、p.371
- 上田公代「乳児を持つ母親の育児に対する否定的感情と子育て支援に関する研究」『熊本大学医学部保健学科紀要』第 3 巻、2007、pp.25-35
- 山田隆「子育てにおけるインターネット利用～携帯電話による子育てホームページ」『東海女子大学紀要』第 25 巻、2005、pp.151-162
- 山際勇一郎「父親の育児を考える（準備委員会企画シンポジウム 3）」『日本教育心理学会総会発表論文集』第 55 巻、2013、S18-S19
- 山口雅史『母親になるということ—母親アイデンティティを巡る考察—』あいり出版、2010
- 山中一英「大学生の友人関係の親密化過程に関する事例分析的研究」『社会心理学研究』第 13 巻第 2 巻、1998、pp.93-102

## 引用・参考 URL

外務省「児童の権利に関する条約」(<http://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/jido/zenbun.html>)

最終アクセス 2015 年 1 月 26 日

「育児教室とは？」育児・出産ナビホームページ (<http://clawma.com/ikuji001/031.htm>)

最終アクセス日 2015 年 1 月 12 日

花王・アジャイルメディア・ネットワーク「パパの子育てに関する意識調査」2009、(<http://markezing.jp/article/detail/7977>) 最終アクセス 2015 年 1 月 28 日

厚生労働省「イクメンプロジェクト」ホームページ ([http://www.ikumen-project.jp/inquiry/faq\\_site.php](http://www.ikumen-project.jp/inquiry/faq_site.php)) 最終アクセス日 2015 年 1 月 8 日

厚生労働省「「イクメンプロジェクト」サイトを開設しました」(<http://www.mhlw.go.jp/topics/2010/06/tp0618-1.html>) 最終アクセス 2015 年 1 月 23 日

ニッセン「育児に関する意識調査」2014 (<http://present.nissen.co.jp/doc/release/20141010-1017.pdf>) 最終アクセス 2015 年 1 月 28 日

「NPO 法人 ファザーリング・ジャパン関西」ホームページ (<http://fjkansai.jp/>) 最終アクセス日 2014 年 12 月 18 日

総務省統計局「平成 13 年社会生活基本調査 報告書掲載表」(<http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/List.do?bid=000000150007&cyclo=0>) 最終アクセス日：2015 年 1 月 7 日

総務省統計局「平成 23 年社会生活基本調査 統計表一覧」2011 ([http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?\\_toGL08020103\\_&tclassID=000001041121&cycleCode=0&requestSender=search](http://www.e-stat.go.jp/SG1/estat/GL08020103.do?_toGL08020103_&tclassID=000001041121&cycleCode=0&requestSender=search)) 最終アクセス日 2014 年 12 月 11 日

横浜市こども青少年局企画調整課「パパスクール情報」(<http://hamadaddy.city.yokohama.lg.jp/school/>) 最終アクセス 2015 年 1 月 27 日

## 引用新聞記事

「「安心面」が来週から変わります (社告)」『読売新聞』2009 年 3 月 24 日夕刊、p.4

「父親同士の連携 必要性を確認 九州・山口サミット＝福岡」『読売新聞』2011 年 6 月 21 日朝刊、p.30

「男性育休取得に千葉市が奨励金＝千葉」『読売新聞』2014 年 2 月 27 日朝刊、p.33

「(フロントランナー) ファザーリング・ジャパン代表理事 安藤哲也さん」『朝日新聞』2009 年 2 月 14 日朝刊、p.1

「(フロントランナー) 横浜市副市長・山田正人さん 子育てして変わった仕事観」『朝日新聞』2010 年 5 月 8 日朝刊、p.1

「父子家庭、孤立防げ 大震災...ママはお星様に 公的支援手薄、改善求める動き【大阪】」『朝日新聞』2011 年 8 月 26 日朝刊、p.25

「[春便り] 日食がつなぐパパ友の輪」『読売新聞』2012 年 5 月 22 日夕刊、p.14

「(はたらく気持ち) 1 年休職した「イクメンの星」田中和彦」『朝日新聞』2014 年 6 月 14

- 日朝刊、p.11
- 「[発言小町@新聞] 出産した後も「女」でいて」『読売新聞』2010年5月23日朝刊、p.15
- 「[ひと・まち・ふれあい] 三原市立西小学校 生きる力、地域で育む＝広島」『読売新聞』2009年9月27日朝刊、p.33
- 「[ほのぼの@タウン] 3月23日＝石川」『読売新聞』2014年3月23日朝刊、p.32
- 「(実況見聞 あれこれレポート) 我らイクメン修行中 遊び方・家事学ぶ／奈良県」『朝日新聞』2010年8月2日朝刊、p.17
- 「[自由時在] 永井充規さん 駅弁大会で地域振興」『読売新聞』2014年1月10日夕刊、p.4
- 「[考えよう・お父さんの子育て] (下) 妻に言いにくい悩みも気軽に相談 (連載)」『読売新聞』2010年4月3日朝刊、p.17
- 「観光親善大使につるの剛士さん 藤沢市／神奈川県」『朝日新聞』2012年4月7日朝刊、p.25
- 「[顔] 「パパ検定」を主催したNPO法人代表 安藤哲也さん」『読売新聞』2008年3月28日朝刊、p.2
- 「子どもの姿が見えなくなるときの 世界市民フォーラム in 神戸【大阪】」『朝日新聞』2014年6月1日朝刊、p.16
- 「(キタキュー力) 「育児パパ」3人の場合 “イクメン”すてきです／福岡県」『朝日新聞』2010年4月27日朝刊、p.25
- 「(こども) 「イクメン」パパの心得 まずは皿洗いから、妻に感謝伝えよう」『朝日新聞』2010年2月1日朝刊、p.27
- 「こども未来賞 港南区・佐藤さん 入選 育休パパの体験つづる＝神奈川県」『読売新聞』2014年1月27日朝刊、p.35
- 「子どもを亡くした悲しみ消えないけど...気持ち話して 石川・福井の団体が交流／石川県」『朝日新聞』2014年2月11日、p.32
- 「(ココロを紡ぐ つるが舞う:2) ギャル友はママ友 いつまでも大切な仲間／群馬県」『朝日新聞』2012年1月3日朝刊、p.33
- 「告知板／鳥取県」『朝日新聞』2014年9月10日朝刊、p.33
- 「子育てNAVI 県がHP開設＝和歌山」『読売新聞』2012年2月8日朝刊、p.30
- 「子育て楽しく、パパの輪 鳥栖で講座／佐賀県」『朝日新聞』2011年2月7日朝刊、p.21
- 「講座・講演 マリオン」『朝日新聞』2008年10月16日朝刊、p.7
- 「(下り坂の向こうに) 「預ける」「預かる」結ぶ 藤沢市の子育て支援定着／神奈川県」『朝日新聞』2013年1月21日、p.33
- 「(まなぶ) お父さん盛り上げ隊 陰に仕掛け人 大正大学教授・西郷泰之／埼玉県」『朝日新聞』2012年4月24日朝刊、p.28
- 「亡き子悼む、心の輪 福井・石川の2団体交流 抱いた時のぬくもりが残る／福井県」『朝

- 日新聞』2014年2月7日朝刊、p.26
- 「[なっ解く] つきあい「パパ友」の輪広げる 育児や地域の情報交換」『読売新聞』2011年11月17日朝刊、p.17
- 「[日曜の朝に] 近所つきあい 花見で確認」『読売新聞』2013年3月31日朝刊、p.21
- 「パパ育休、もっと気軽に なぜ増えぬ?体験者に聞く【大阪】」『朝日新聞』2002年11月1日朝刊、p.29
- 「『パパ友』広がる輪 和歌山市主催「子育てひろば」好評 市「気軽に来て」/和歌山県」『朝日新聞』2011年2月9日朝刊、p.27
- 「パパ友 語り合おう 25日、大阪・東成区で」『読売新聞』2011年9月15日朝刊、p.21
- 「パパ友の作り方・先輩の失敗談...父子手帳、さいたま市が一新/埼玉県」『朝日新聞』2014年3月13日朝刊、p.28
- 「パパと楽しむ、街へお出かけ 仲間つくって、あちこちに」『朝日新聞』2008年1月8日夕刊、p.7
- 「[支え合って子育て] 子連れ被災に備え 地域のつながり大切」『読売新聞』2007年1月8日朝刊、p.12
- 「[支え合って子育て] 投稿特集 ママ友・パパ友、いますか」『読売新聞』2007年1月29日朝刊、p.17
- 「(サザエさんをさがして) 健康優良児 「育ち」を競った時代」『朝日新聞』2011年5月7日朝刊、p.3
- 「生活充実、パパ友づくり 育児、地域の安全...話題も様々」『読売新聞』2009年3月31日夕刊、p.6
- 「育てイクメン 一緒に体操 田辺で教室=和歌山」『読売新聞』2011年2月27日朝刊、p.29
- 「総局日誌/石川県」『朝日新聞』2012年4月4日朝刊、p.31
- 「[たまん] NPO法人「ダイバーシティコミュ」代表理事 森林育代さん=多摩」『読売新聞』2012年8月6日朝刊、p.31
- 「[東京ホットぶれいす 2013] 我らパパ友戦隊=東京」『読売新聞』2013年8月11日朝刊、p.28
- 「[Wのミカタ] イクメン同士 相談 つながりをつくる機会を=三重」『読売新聞』2014年6月25日朝刊、p.35
- 「焼きいもかじり「パパ友」つくろう 父親の育児参加 企画始まる 県・NPO/埼玉県」『朝日新聞』2005年11月17日朝刊、p.30
- 「よみうり子育て応援団@神戸 パパの力 磨こうよ お父さんの子育て=特集」『読売新聞』2010年6月1日朝刊、p.18
- 「[夕影] 12月17日」『読売新聞』2011年12月17日夕刊、p.9
- 「(2014年知事選 わたしの一議:5) 父子家庭支援のNPO創設、安藤哲也さん/東京都」

『朝日新聞』2014年2月5日朝刊、p.29  
「(360°) パパがお迎え、当たり前 独、2歳児の母 5割復職／国会 3割女性、保育で論  
戦」『朝日新聞』2014年11月2日朝刊、p.4